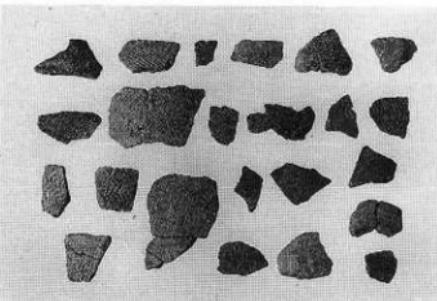
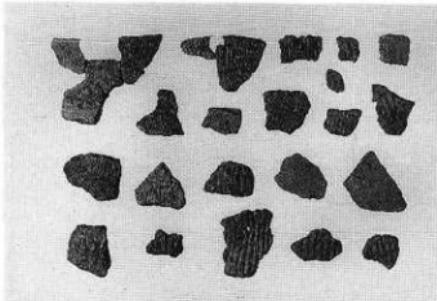


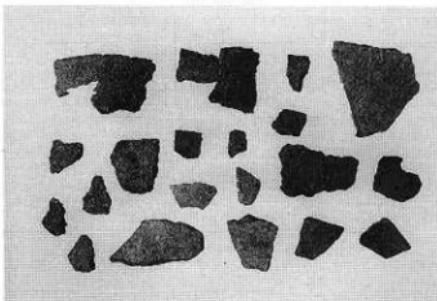
橢円押型文



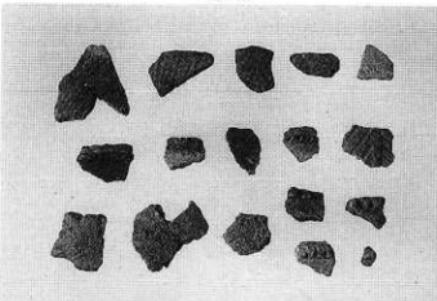
山型押型文



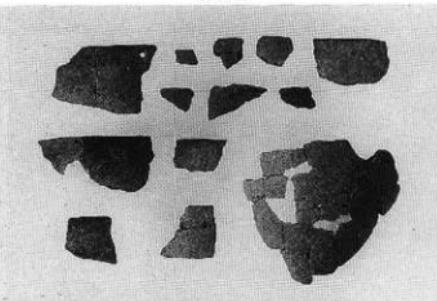
捺糸文



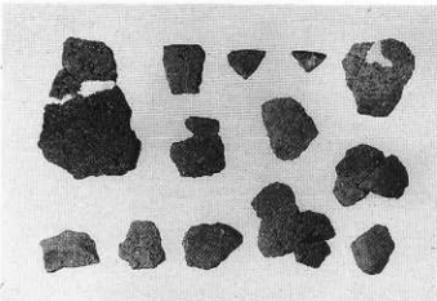
捺糸文



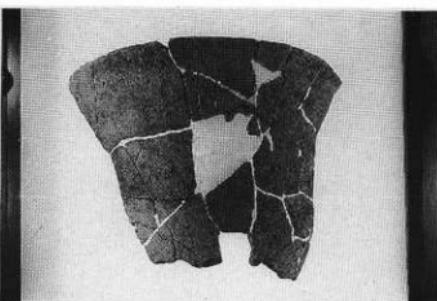
縄文・手向山式・突帯文



無文

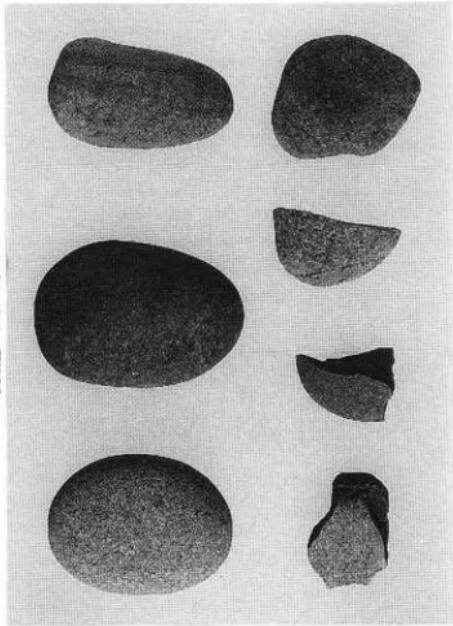


無文



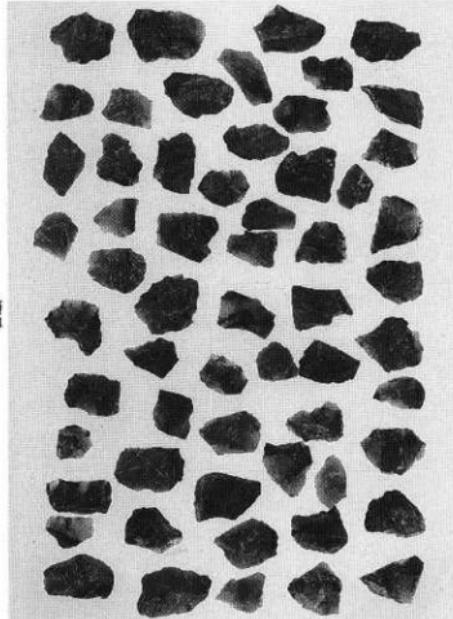
1号・2号土塙出土

磨石・敲石

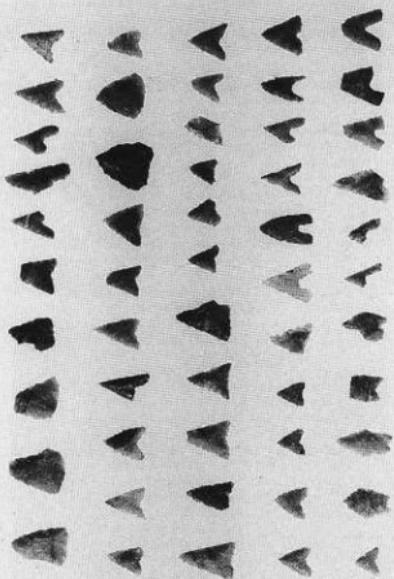
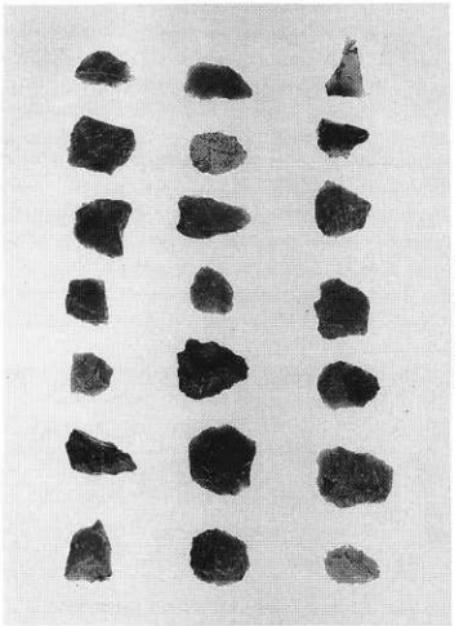


尖頭器・スクレイパー

3号土塹出土チヤー卜



石礫



# 藏 田 遺 跡

# 第V章 蔵田遺跡の調査

## 第1節 調査の概要

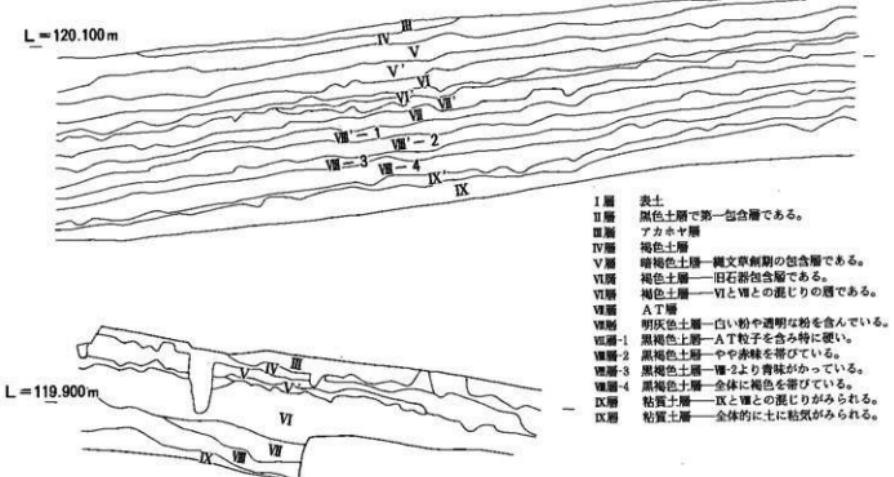
蔵田遺跡は矢野原遺跡の南の丘陵部分に位置している。調査の都合上A地区からC地区に分けた。本遺跡の調査は、事前の試掘調査で矢野原遺跡と同様の堆積が認められるA地区から開始した。重機による表土の除去作業を行なうと黒色土層から弥生土器が出土した。その後、地形に沿って5mグリッドを設定し、アルファベットと整数で表示した(第2図)。

調査の結果、A地区では、第III層のアカホヤ上に弥生時代後期の堅穴住居跡が1軒検出されている。また土壌を19基検出した。丘陵の舌状部分は、アカホヤ層が残っていないかったので、第VI層まで掘り下げたところ多量ではなかったものの剣片尖頭器を中心とする一群を確認することができた。B地区ではグリッド沿いにトレンチをあけ調査したが、包含層はなかった。C地区はかなりの傾斜地であったが第III層のアカホヤ層が残っていた。アカホヤ上で柱穴群が検出されたが、掘立柱建物は、検出できていない。

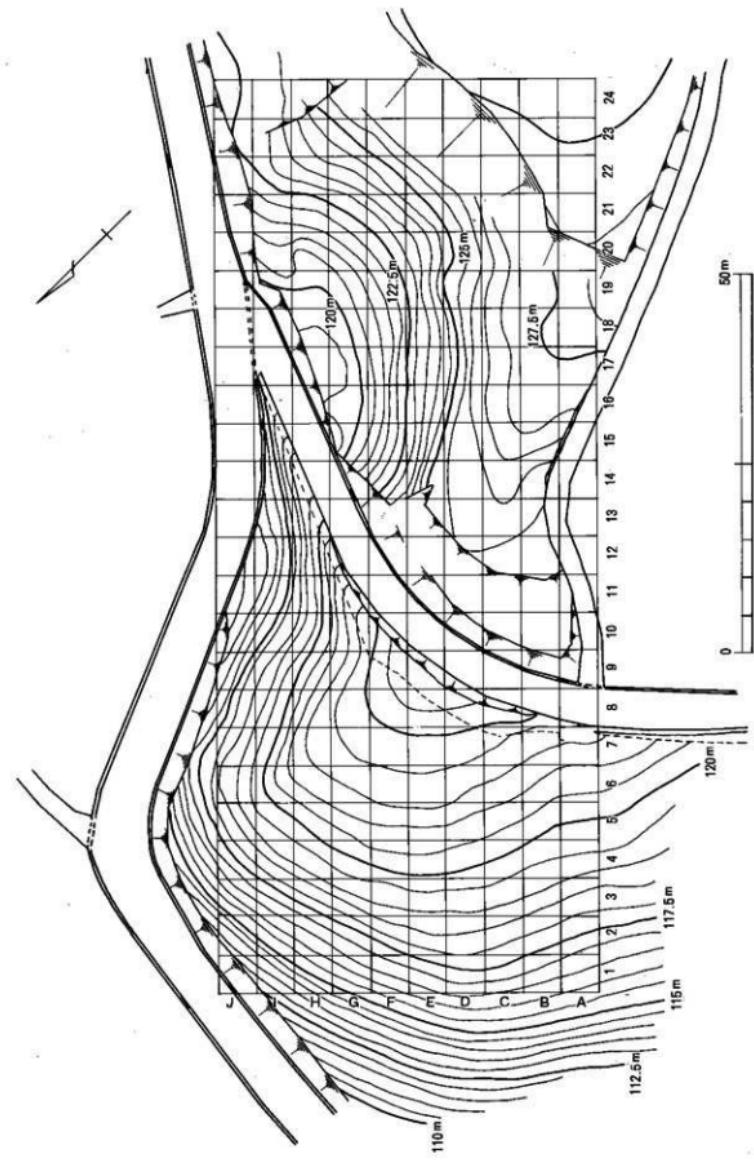
また、旧石器は、このC地区から殆ど出土している。

## 第2節 層序

蔵田遺跡の基本層序は矢野原遺跡に準じている。第I層が表土で、第II層が黒色土層で第一包含層である。第III層は、いわゆるアカホヤ層である。第IV層と第V層は、縄文草創期から縄文早期までの層である。第VI層は、旧石器包含層である。第VII層は、いわゆるAT層である。第VIII層は、黒褐色土層で非常にかたくなっている。第IX層は、粘質土である(第1図)。



第1図 A地区・C地区土層実測図



第2図 蔵田遺跡グリッド図

### 第3節 旧石器時代の遺物分布状況と出土遺物

#### 1 旧石器分布状況（第3図）

森田遺跡は、矢野原遺跡とほぼ同様の堆積状況を呈し、石器の素材も流紋岩が主でホルンフェルスとチャートからなっている。A地区は矢野原遺跡の地層がほぼ残存しており矢野原遺跡の8層下部から9層上部にかけてのところで石器の出土が期待されたが出土せず斜面であるがC地区の部分でより多くの遺物を検出した。

#### 2 旧石器出土遺物（第4図～第15図）

旧石器時代の遺構は検出されなかったが、包含層からナイフ形石器などの石器が出土した。本遺跡では、形態や機能などにより分類した。

##### (1) ナイフ形石器（第4図～第7図）

ここではナイフ形石器をとりあげた。形態や加工技術等により次のように分類した。

I類…石器本体の二側縁に刃溝し加工のみられるもの（1・4・6）。

II類…石器本体の一側縁ないし縁辺の一部に刃溝し加工のみられるもの（5・7～16）。

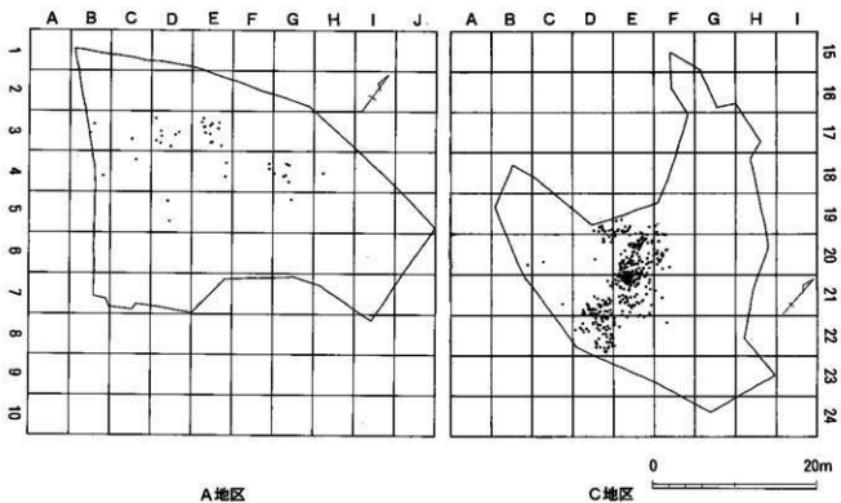
III類…素材となる縦長剣片の打面を残して、その両側ないしは片側に抉入状の刃溝し加工が施されているもの（17～27）。尚、第III類は、九州では剣片尖頭器と呼ばれている。

##### (2) スクレイパー（第7図～第8図）

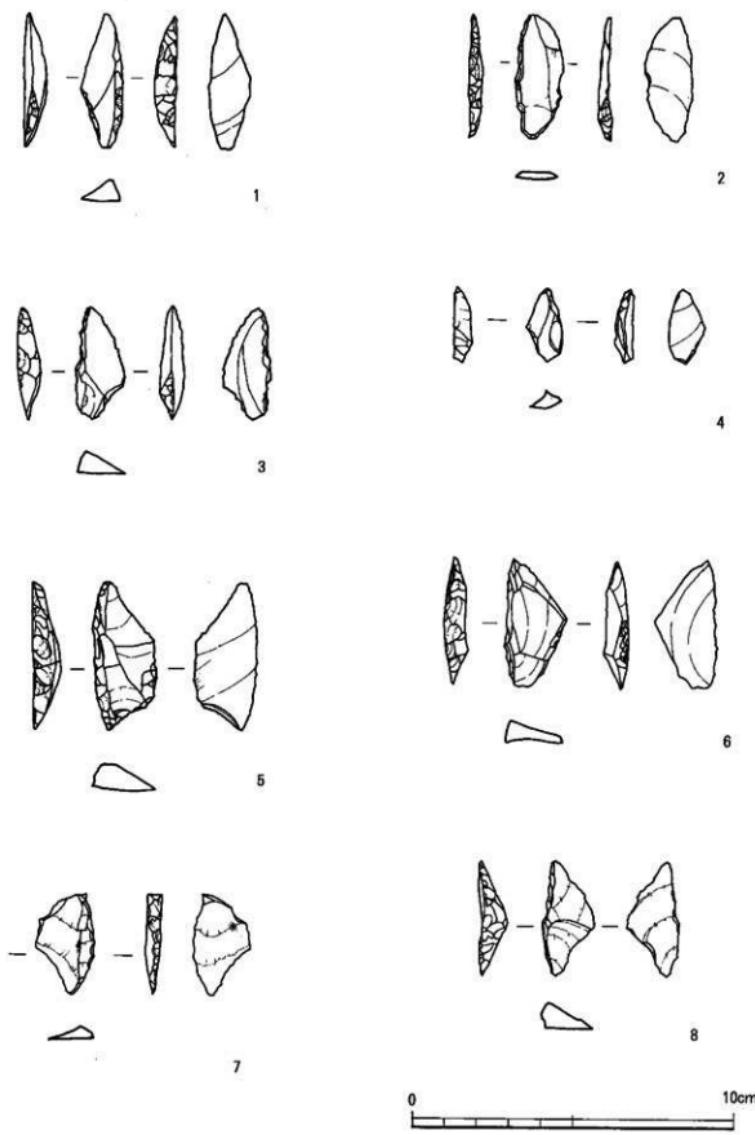
ここでは、スクレイパーをとりあげた。形態や加工技術等により次のように分類した。

I類…長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたもの（32・33・34・38・39）。

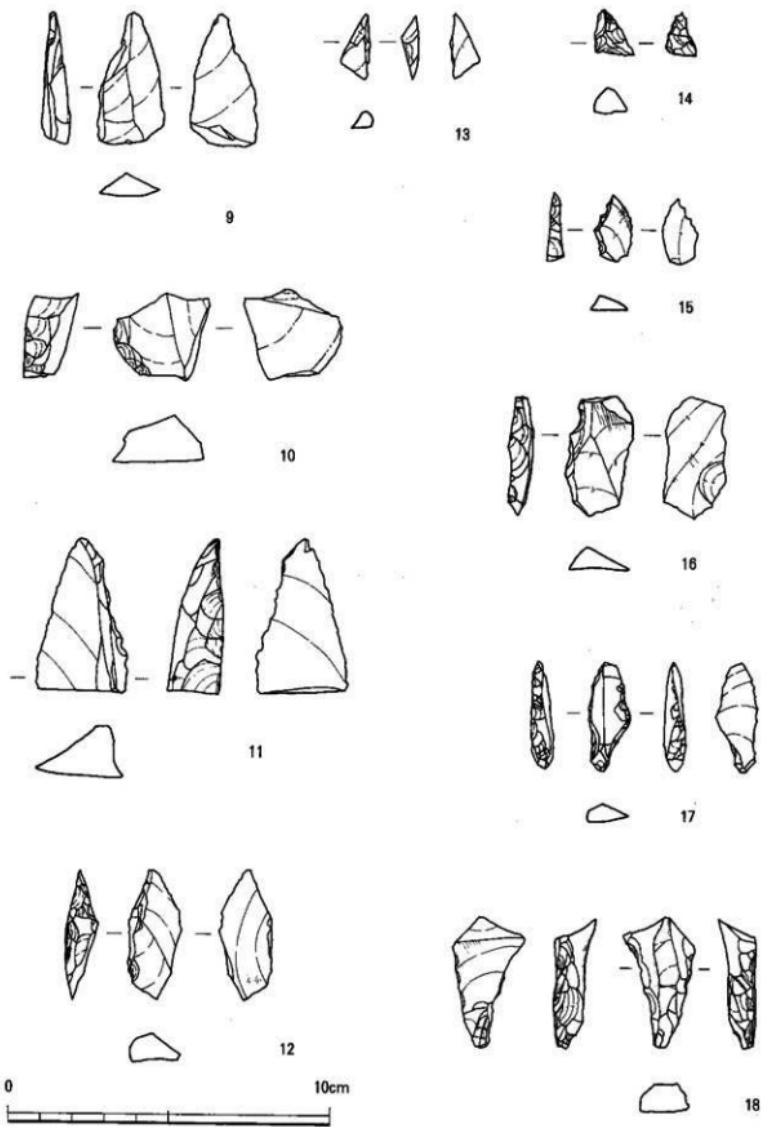
II類…剣片の側縁に縁辺の長さの二分の一以上に連続的な調整によって刃部を作り出しているもの（28～31・35～37）。



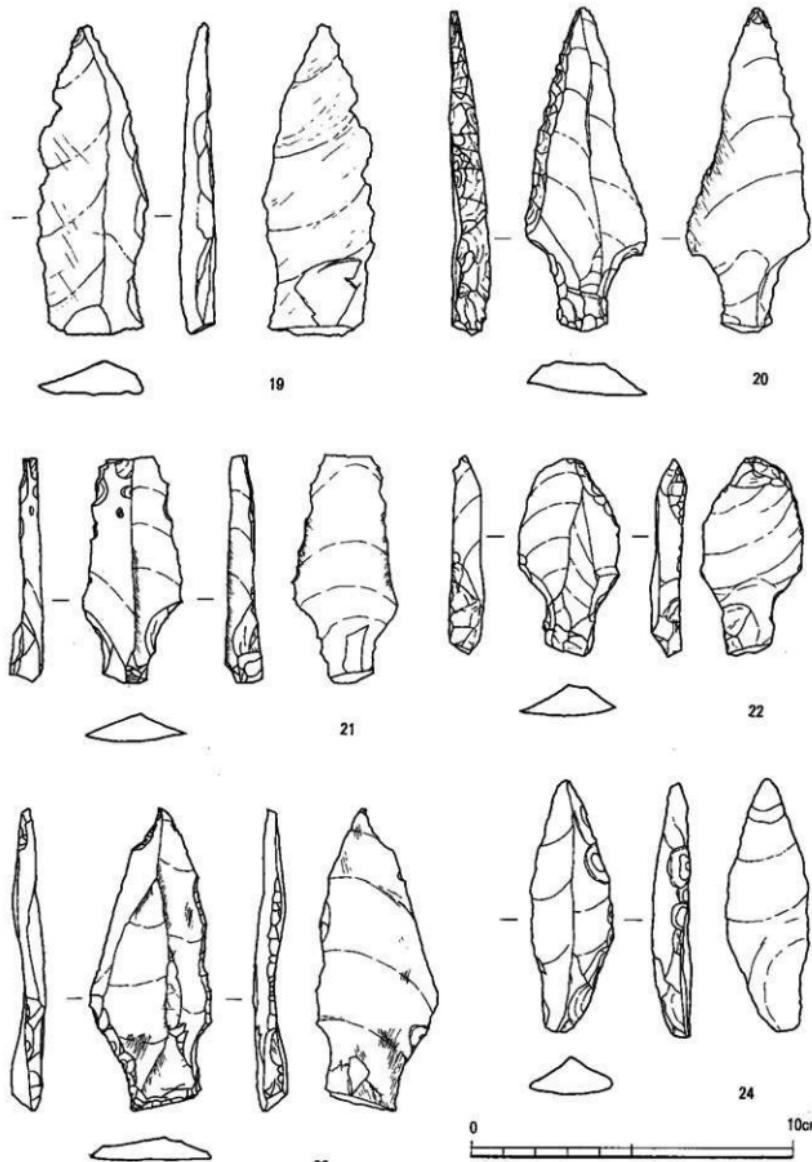
第3図 A・C地区旧石器分布図



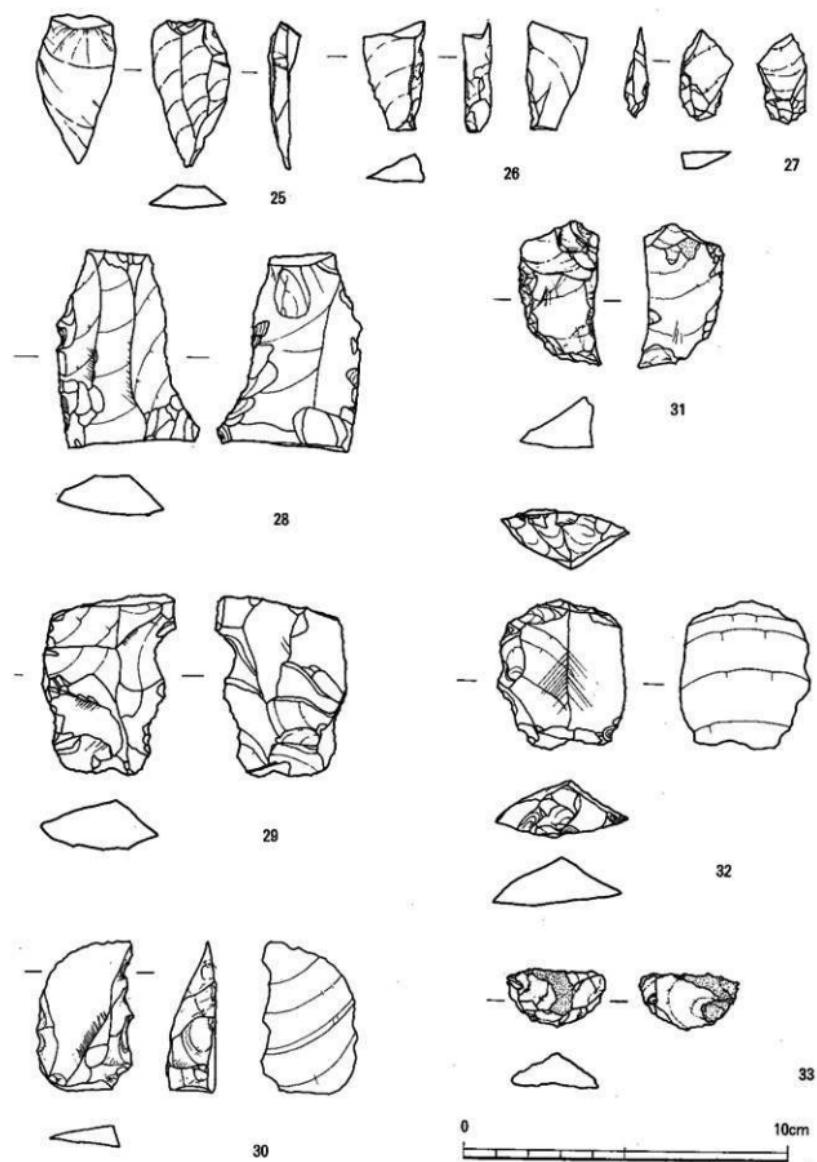
第4図 萩田遺跡旧石器実測図(1)



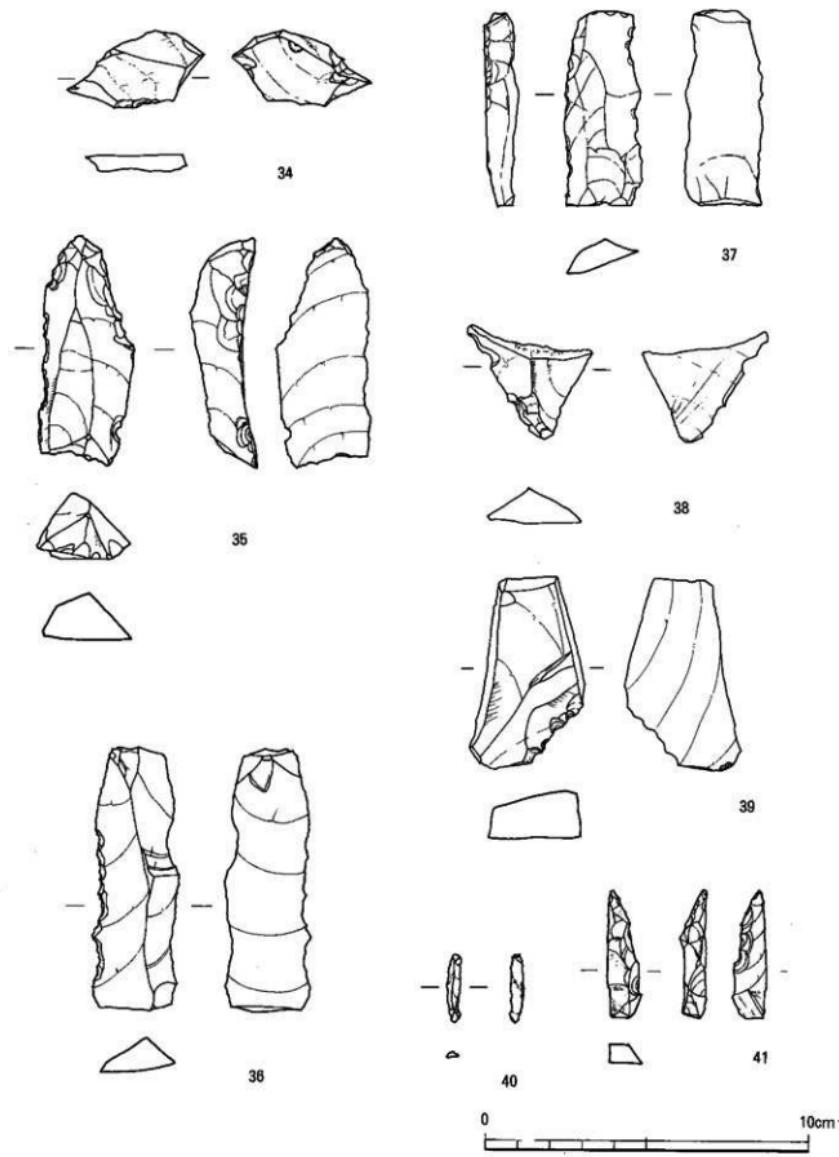
第5図 藏田遺跡旧石器実測図（2）



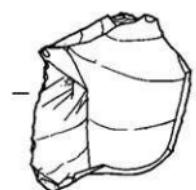
第6図 薩田遺跡旧石器実測図（3）



第7図 薩田遺跡旧石器実測図(4)



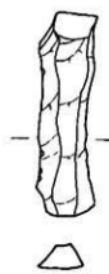
第8図 薩田遺跡旧石器実測図（5）



43



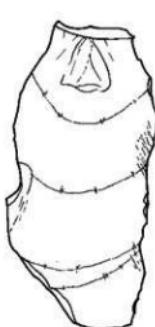
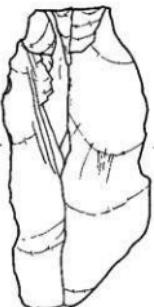
42



45



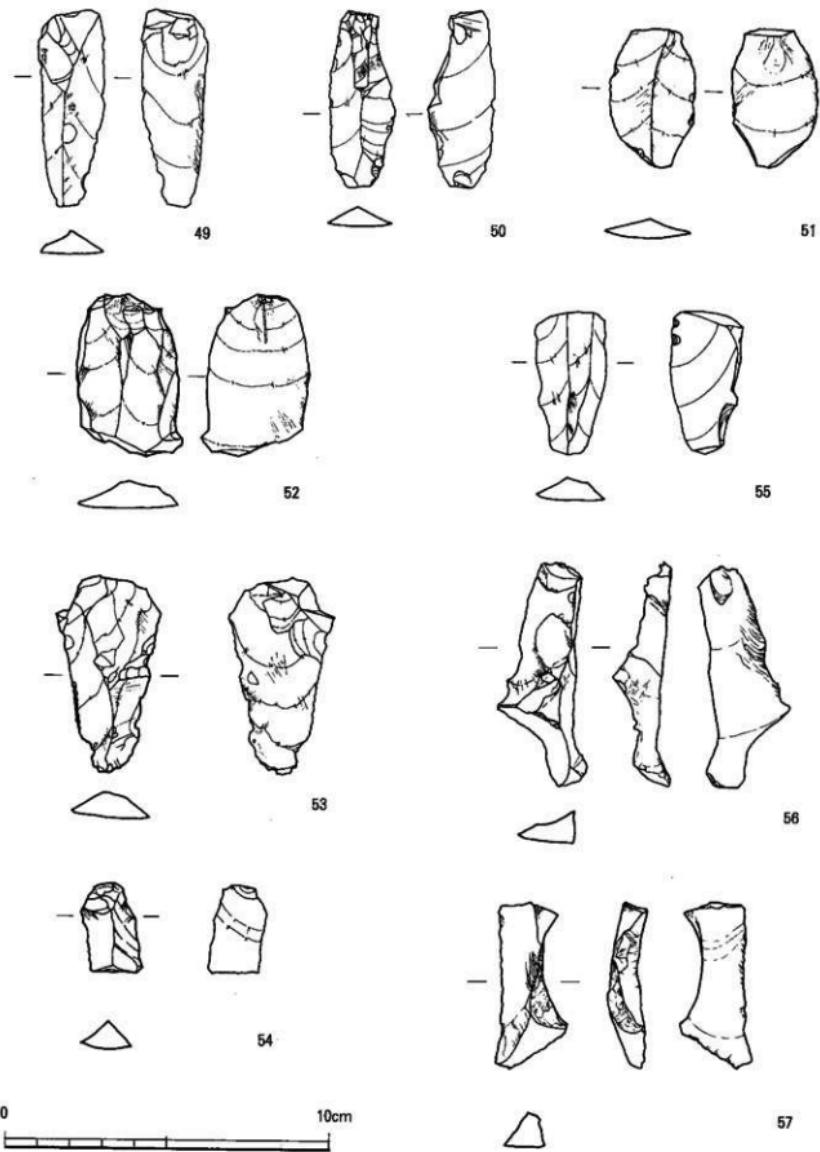
46



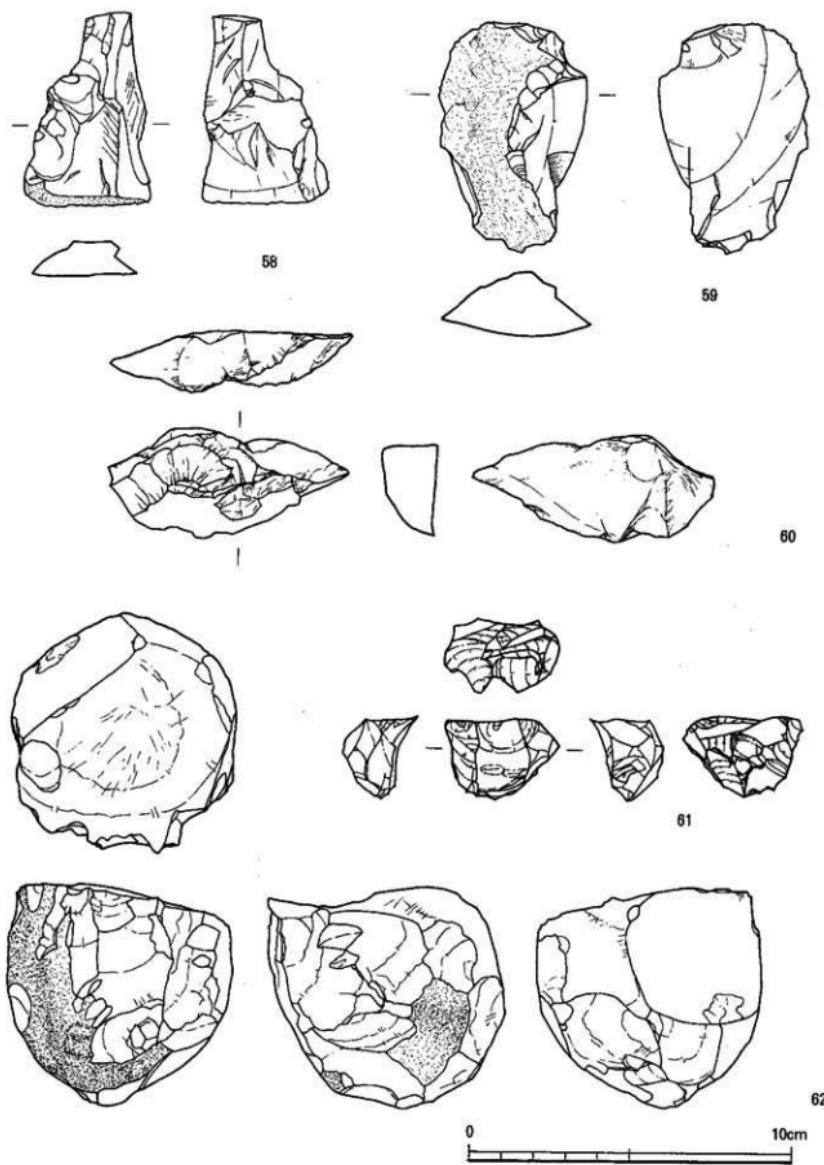
0

10cm

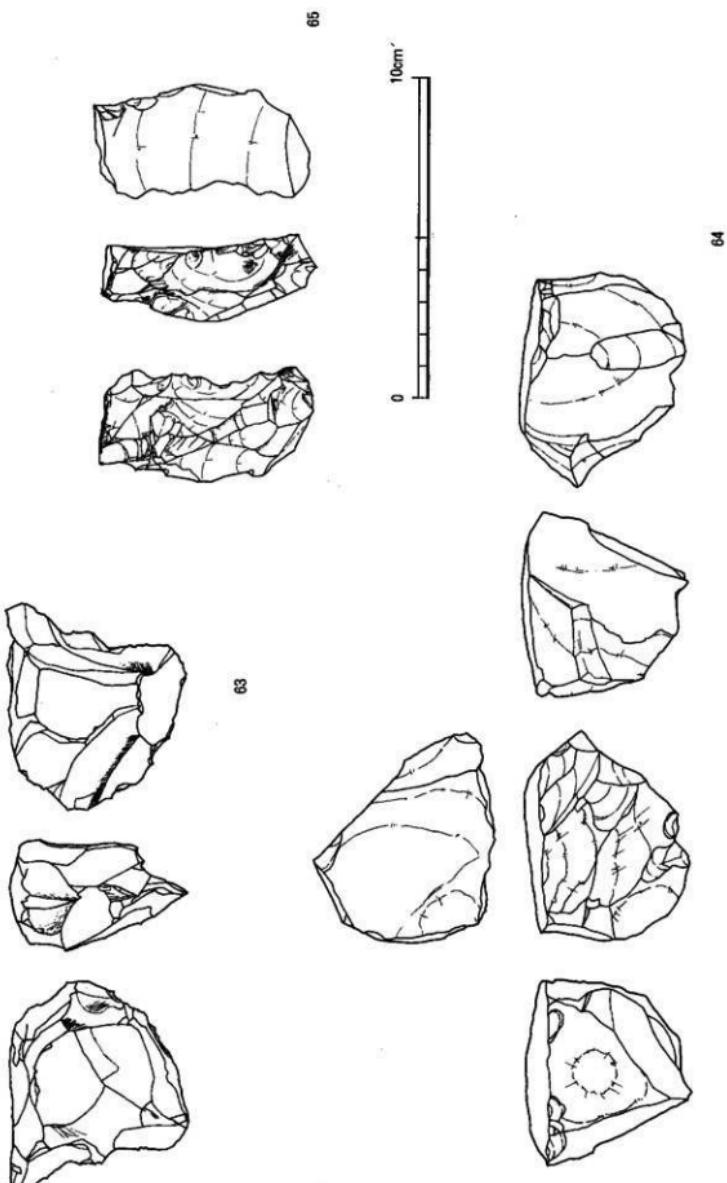
第9図 藏田遺跡旧石器実測図（6）



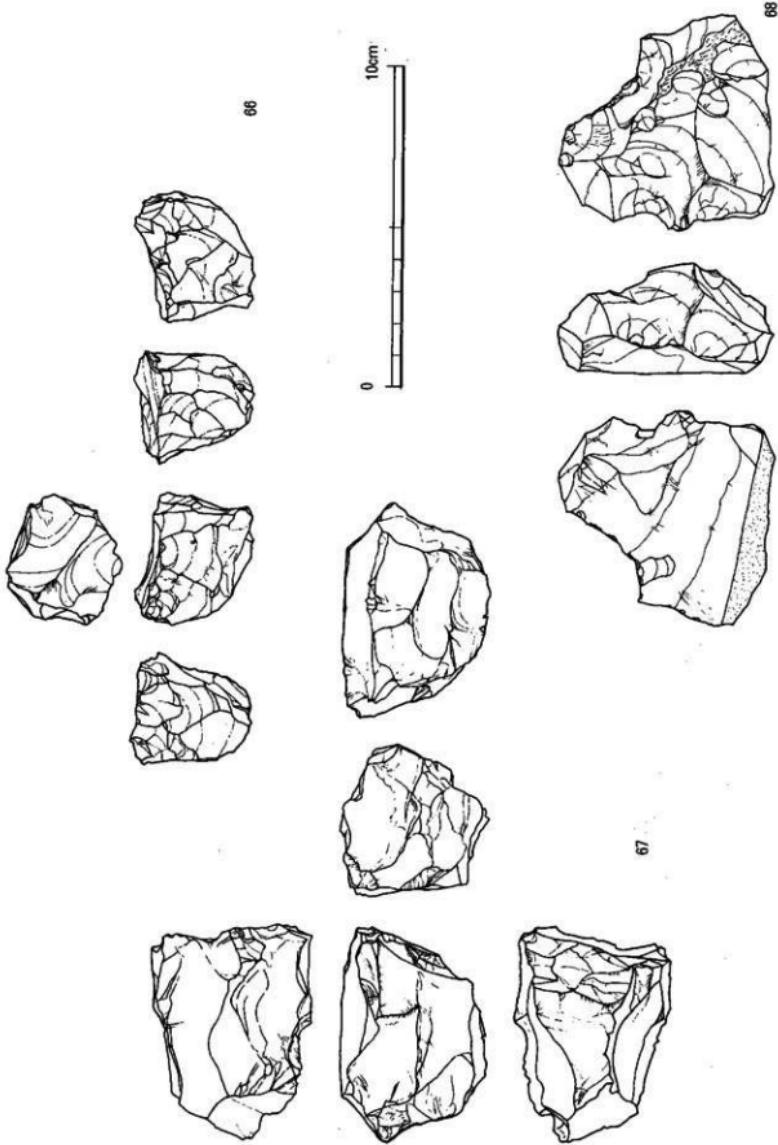
第10図 薩田遺跡旧石器実測図（7）



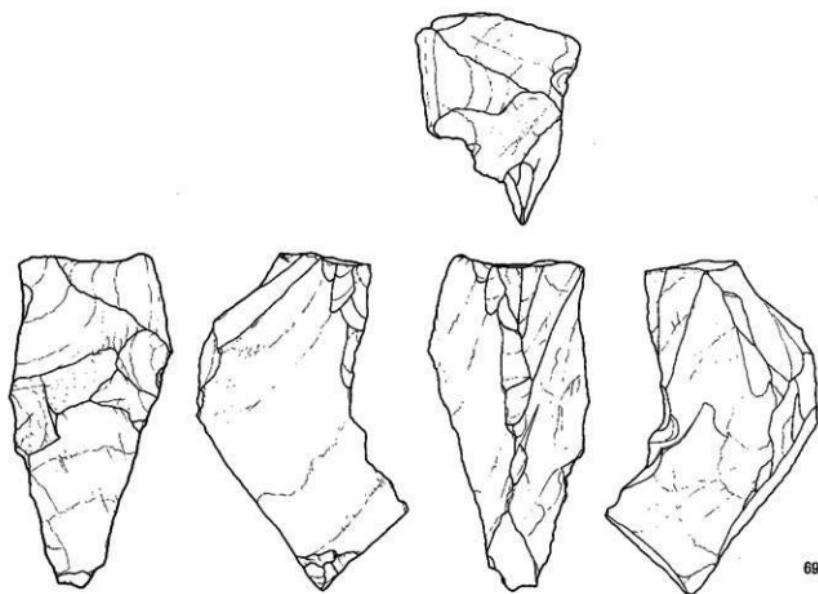
第11図 藏田遺跡旧石器実測図(8)



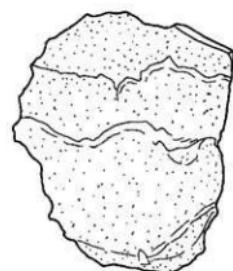
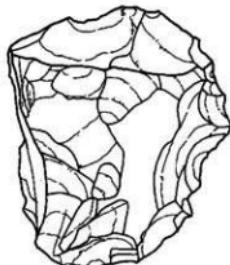
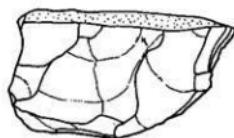
第12図 藤田遺跡旧石器実測図（9）



第13図 蔵田遺跡旧石器実測図 (10)



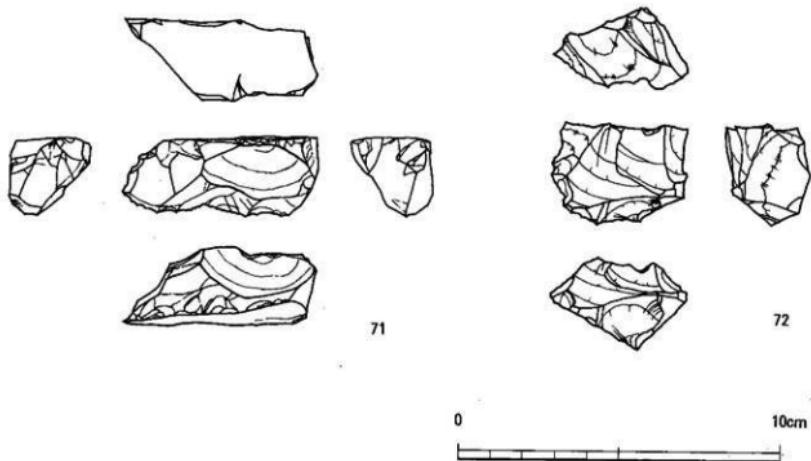
69



70



第14図 蔵田遺跡旧石器実測図 (11)



第15図 蔵田遺跡旧石器実測図(12)

(3) グレイバースポール・石錐 (第8図)

40は、両刃に加工の痕がみられる。41は、錐で両縁部からの調整で錐状の突出した刃部を作り出している。

(4) 使用痕のある剝片 (第9図～第11図)

ここでは、使用痕のみられる剝片を一括した。

I類…剝離方向の縦に短いもので調整の痕跡がみられるもの (42～43・60)。

II類…剝離方向が縦に長い縦長剝片を素材にして調整の痕跡がみられるもの (44～57)。

III類…石核を調整してつくられたもの。(58～59)。

I類は、横長剝片が素材になっており、II類は、縦長剝片が素材となっている。

(5) 石核類 (第11図～第15図)

ここでは、石核類を一括した。

I類…縦長剝片を剝離した痕跡を持つもの (65・67・69・70・71)。

II類…横長剝片を剝離した痕跡を持つもの (61～64・66・68・72)。

以上藏田遺跡の出土石器を器種別にその形態や機能を基に分類をした。石材については、ナイフ形石器では、流紋岩が最も多く、一部ホルンフェルスもみられる。スクレイバーは、流紋岩のほか凝灰岩・チャートがみられる。剝片類は流紋岩と凝灰岩・凝灰角礫岩等に分かれる。石核類は、流紋岩にチャートが多く、一部無斑品質安山岩等がみられる。これらの石材は、五ヶ瀬川流域で採集されるものであり、当時の人々も五ヶ瀬川流域に足を運び石器の石材になる石を探していたのであろう。くわしくは、石器の計測表に示した。

表1 蔵田遺跡旧石器計測表

レコード番号	種別	グリット番号	層位	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考	レコード番号	種別	グリット番号	層位	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	ナイフ形 石器	F20	6	4.25	1.3	0.7	3.0	流紋岩		37	アラベライト 石器	G19	4	6.0	2.4	0.8	14.0	流紋岩	
2	〃	F22	6	3.5	1.4	0.4	2.5	〃		38	〃	E21	6	3.5	3.9	1.1	8.1	〃	
3	〃	G20	K	3.5	1.5	0.7	3.1	〃		39	〃	F20	6	5.1	3.6	1.5	35.7	〃	
4	〃	G20	6	2.8	1.1	0.65	1.2	流紋岩		40	フローラル ボル	G21	6	2.1	0.4	0.2	0.2	チャート	
5	〃	F21	6	4.6	2.0	0.75	6.9	〃		41	キリ	—	4.0	1.05	0.8	3.9	〃		
6	〃	F20	6	4.0	2.0	0.8	5.0	〃		42	二本丸 工剥片	F20	6	5.63	4.98	2.35	62.8	流紋岩	
7	〃	E21	6	3.1	1.65	0.5	2.4	〃		43	〃	G21	6	2.68	2.33	1.18	7.3	〃	
8	〃	—	6	3.6	1.6	0.9	2.7	流紋岩	黒色 風化面なし	44	使用範囲を 示す記号	E3	6	6.65	2.85	0.92	12.7	〃	
9	〃	F20	6	4.2	2.12	0.95	5.3	ホルン フェルス		45	〃	E22	6	6.4	1.5	0.75	11.0	〃	
10	ナイフ形 石器の複数	F21	6	2.8	3.05	2.7	12.6	流紋岩		46	〃	G4	6	8.6	3.5	0.8	15.1	〃	
11	ナイフ形 石器	F20	6	4.9	2.85	1.75	16.9	〃		47	〃	E3	6	19.6	4.7	1.3	61.0	ホルンフェルス化	
12	〃	E21	6	4.1	1.65	1.0	5.0	〃		48	〃	G4	6	7.3	4.3	1.4	39.2	〃	
13	〃	F22	6	3.07	0.98	0.55	0.6	〃		49	〃	F21	6	6.2	2.1	0.8	8.9	ホルンフェルス化	
14	〃	G20	6	1.45	1.23	1.0	1.0	風化石	三船山西小国 裏文化帶の剥れこみ分	50	〃	F22	6	5.65	2.05	0.84	7.0	凝灰岩	スクレイバーか
15	〃	F20	6	2.1	1.2	0.5	0.9	流紋岩		51	〃	E3	6	4.26	2.66	0.85	7.5	〃	
16	〃	F21	6	3.8	2.0	0.65	5.2	〃		52	〃	—	6	5.0	3.45	0.8	17.5	流紋岩	
17	〃	F22	6	3.4	1.3	0.7	3.8	〃		53	〃	F22	6	6.15	3.25	0.8	14.4	凝灰 角礫岩	
18	〃	F21	6	4.1	2.3	0.123	8.1	〃	13と同じ石質	54	〃	E21	6	2.9	1.6	0.85	3.6	流紋岩	
19	剥片実 観察	F21	6	9.7	3.5	1.1	31.1	石英流紋岩		55	〃	E3	6	4.5	2.35	0.77	9.1	〃	
20	〃	F4	6	10.2	3.7	1.1	36.5	流紋岩		56	石核調 整剥片	F22	6	7.05	2.5	1.6	14.3	〃	
21	〃	—	—	7.1	3.1	1.25	20.3	〃		57	〃	F21	6	5.1	1.6	1.1	8.4	〃	
22	〃	F20	6	6.1	3.15	1.2	21.2	〃		58	〃	F10	6	5.1	4.0	1.36	27.6	〃	
23	〃	—	6	9.45	3.8	1.05	29.0	〃		59	〃	G20	6	7.27	4.7	1.966	60.2	〃	
24	〃	F22	6	7.8	2.6	1.2	20.5	ホルン フェルス		60	〃	F20	6	3.8	7.5	1.65	60.0	〃	
25	〃	E3	6	4.6	2.4	0.65	7.6	流紋岩		61	石核	E21	6	2.56	3.6	2.3	18.3	チャート	
26	〃	—	6	3.4	1.9	0.85	5.1	〃		62	〃	F21	6	4.9	7.05	7.45	414.7	〃	
27	〃	F20	6	2.8	1.5	0.6	3.2	〃		63	〃	G20	6	5.66	6.5	3.5	110.3	〃	
28	スカラップ 状	—	6	6.2	4.48	1.45	41.2	流紋岩		64	〃	F20	6	5.15	6.6	5.8	184.9	〃	
29	〃	F21	6	5.65	4.15	1.7	37.2	〃		65	〃	F21	6	6.7	3.55	2.8	63.7	〃	
30	〃	—	6	4.75	3.05	1.6	20.9	〃		66	〃	F21	6	3.7	4.15	3.65	53.4	〃	
31	〃	G20	6	4.55	2.6	1.6	17.4	〃		67	〃	F20	6	4.6	6.75	4.7	168.3	無斑品 質岩屑	
32	〃	E22	6	4.75	4.03	1.8	30.0	凝灰岩		68	〃	E21	6	6.75	6.75	3.5	143.0	流紋岩	
33	〃	F20	6	3.05	1.75	0.95	4.3	チャート		69	〃	F21	6	10.45	5.05	6.6	208.5	〃	
34	〃	G20	6	2.5	4.26	1.0	7.6	流紋岩		70	〃	E3	8.3	6.9	4.9	230.4	〃		
35	〃	E21	6	7.2	2.95	2.07	35.0	〃		71	石核	F20	6	2.5	6.05	2.5	38.2	〃	
36	〃	F21	6	8.5	2.7	1.4	25.3	〃		72	〃	F20	6	3.2	4.2	2.65	28.4	〃	

## 第4節 縄文時代草創期の遺物

咸田遺跡では、縄文時代の遺物として土器と石器類が出土しているが草創期の遺物である。

### (1) 縄文時代の土器 (第16図)

縄文土器の出土は少ないが土器の部位や施文によって分類した。

口縁部

#### 隆帯紋土器 (A類)

A-I類…口縁部で隆帯部に逆くの字に連続刺突文様を施しているもの (1~3)。

A-II類…口縁部で隆帯部がI類より平坦で連続刺突文が二直線状に文様が並ぶもの (4)。

A-III類…口縁部で3条の幅広の隆帯部を持ち器面に輪積みのような跡がみられるもの (5)。

爪形文土器 (B類)…口縁部でくの字状に爪形で文様を施している (6~8+15)。

胴部…ナデや横ナデ調整をほどこしている (9~14)。

表2 縄文土器 (草創期) 観察表

画面番号	遺物番号	グリッド	器種	器部	文様		調整		色調		胎土		備考	分類
					外 面	内 面	外 面	内 面	焼成	外 面	内 面	外 面	内 面	
1 6 1	B-4	深鉢	口縁部	隆帯部	隆帯上にへら 伏し工具による 削りの跡み		ヨコナデ	ナデ	良好	に bei 黄褐色 灰褐色		1mm以下の乳白色、灰褐色の粒 黒く光沢のある柱状の粒や無 色透明で光沢のある粒を含む	口縁部(斜方 向の削れし た跡み)	A-I
1 6 2	B-4	深鉢	口縁部	隆帯部	隆帯上にへら 伏し工具による 削りの跡み		ナデ	ヨコナデ	良好	淡黄 灰黃		1mm以下の淡黄色、無色透明で光沢 灰褐色の粒。	口縁部(斜方 向の削れし た跡み)	A-I
1 6 3	D-6	深鉢	口縁部	隆帯部	隆帯上にへら 伏し工具による 削りの跡み		ナデ	ヨコナデ	良好	橙	に bei 黄褐色	1mm以下の淡黄色の粒を多 く含む	口縁部(斜方 向の削れし た跡み)	A-I
1 6 4	C-3	深鉢	口縁部	隆帯部	隆帯上にへら 伏し工具による 削りの跡み		ナデ	ナデ	良好	に bei 黄褐色		2.5mm以下の淡黄色、白色、 褐色の粒を多く含む	口縁部(斜方 向の削れし た跡み)	A-II
1 6 5		深鉢	口縁部	隆帯の間に削 り方向の爪形文			ナデ	ナデ	良好	橙	橙	2mm以下の淡黄色、白色、 黒褐色の粒を含む		A-III
1 6 6	C-3	深鉢	口縁部	隆帯の間に削 り方向の爪形文			ナデ	ナデ	良好	橙	明黄褐色	3mm以下の淡黄色、灰白色 の粒を含む		II
1 6 7		深鉢	口縁部	へら伏し工具によ る前方側の削痕			ナデ	ナデ	良好	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の白色の粒、黒く 光沢のある柱状の粒を含む	口縁部(斜方 向の削れ)	II
1 6 8	D-6	深鉢	口縁部	削方向の削痕			ナデ	ヨコナデ	良好	橙	に bei 黄褐色	3mm以下の白色の粒、黒く 光沢のある柱状の粒を含む		II
1 6 9	D-6	深鉢	口縁部				ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙	に bei 黄褐色	4mm以下の乳白色、褐色、 白色の粒を含む		—
1 6 1 0	D-6	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	良好	に bei 黄褐色	橙	1mm以下の乳白色、褐色、 白色の粒を含む		—
1 6 1 1	D-3	深鉢	胴部				ヨコナデ	ヨコナデ	良好	に bei 黄褐色	に bei 黄褐色	4mm以下の乳白色、黑色、 黑色の粒、黒く光沢のある柱状の粒を含む		—
1 6 1 2	C-3	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	良好	明黄褐色	明黄褐色	5mm以下の黑色の粒、1mm以下の 白色の粒、黒く光沢のある柱状の粒を含む		—
1 6 1 3	C-3	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	良好	に bei 黄褐色	に bei 黄褐色	5mm以下の黑色の粒、1mm以下の 白色の粒、黒く光沢のある柱状の粒を含む		—
1 6 1 4	C-3	深鉢	胴部				ナデ	ヨコナデ ナデ	良好	橙	に bei 黄褐色	2.5mm以下の白色の粒、1mm以下の 黑色の粒、黒く光沢で光沢のある柱 状の粒や無色透明な柱、赤色、 黒色透明で光沢のある粒を含む		—
1 6 1 5	D-3	深鉢	口縁部				ナデ	ヨコナデ	良好	に bei 黄褐色	灰褐色	1.5mm以下の乳白色の粒、ある柱 状の粒や無色透明な柱、赤色、 灰白色の粒を含む	口縁部(斜方 向の削れ)	B-I

### (2) 縄文時代の石器 (第17図)

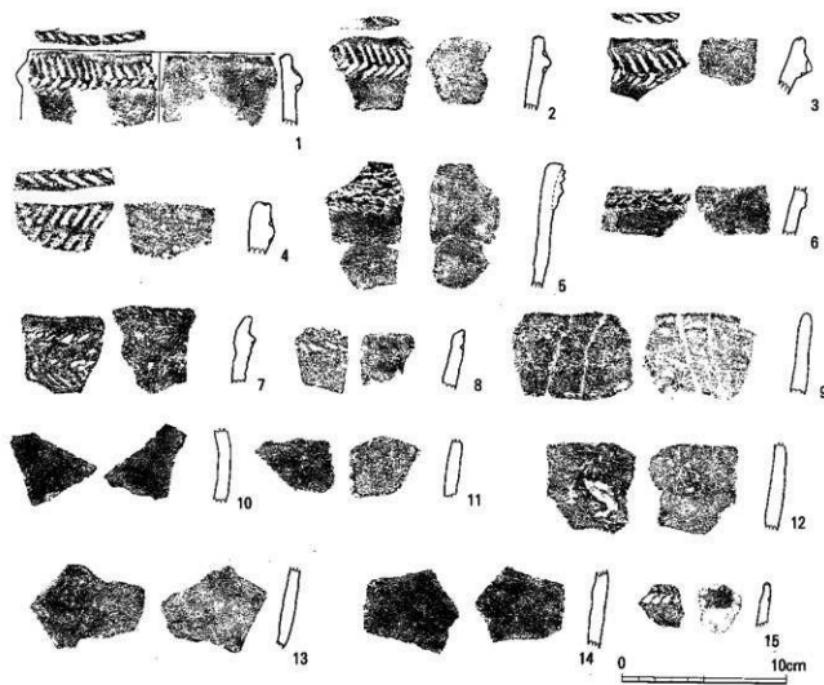
咸田遺跡の縄文時代の石器は、石鎌と磨石類が出土している。

#### 1 石鎌

凹基無莖石鎌…基部に抉入のあるもの (1~5)。

1と5は、基部の抉入部分が三角形状を呈している。2~3は、抉入部分が円形状を呈している。

円基石鎌…基部が円形状を呈しているもの (6)。



第16図 萩田遺跡出土縄文土器実測図（草創期）

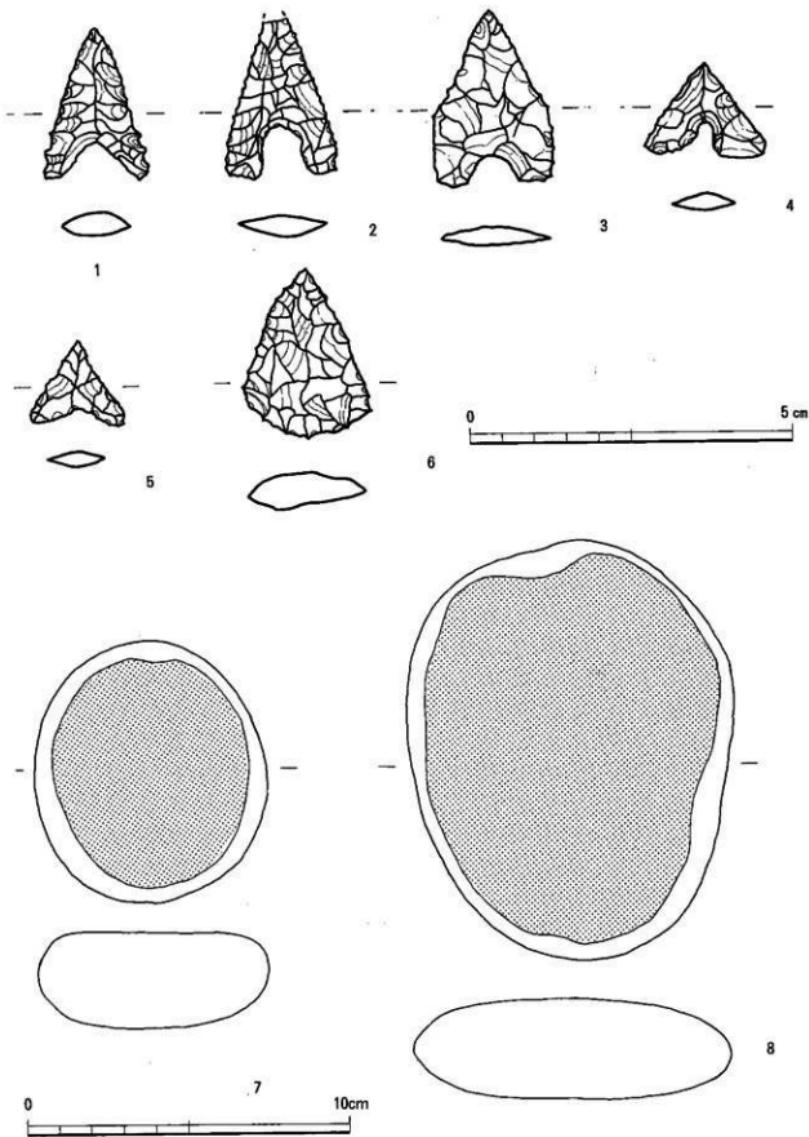
## 2 磨石類

8は、最大長8.2cm、最大幅7.2cm、最大厚3.0cmの楕円形状のものである。

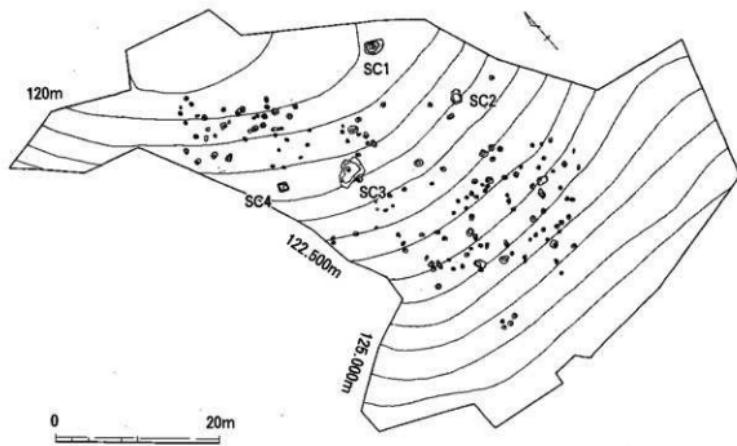
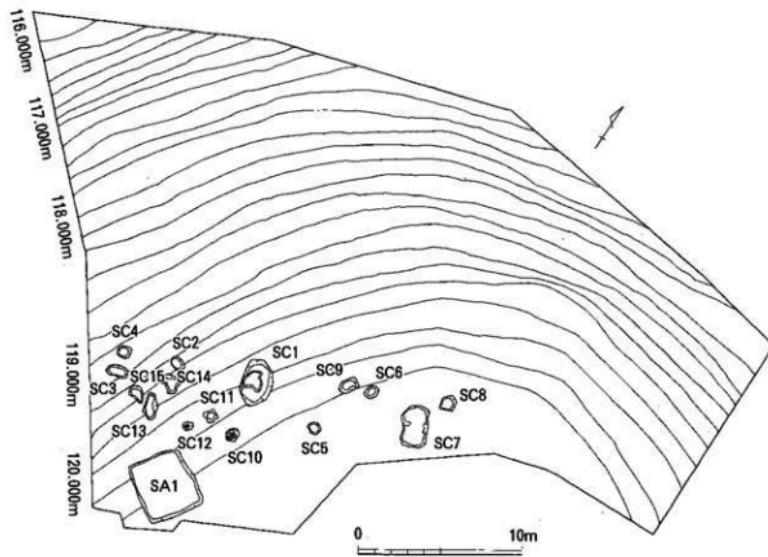
7は、最大長13.1cm、最大幅10.2cm、最大厚3.15cmの楕円形状を呈したものである。

表3 縄文草創期石器計測表

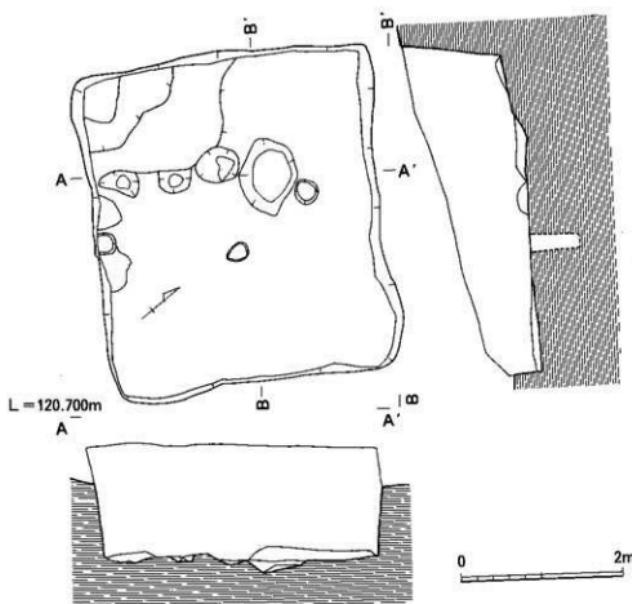
レイアウト番号	種別	グリット層位	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
1	石鏃	—	2.3	1.6	0.35	0.9	黒曜石
2	*	F21 置丸⑥	2.5	1.7	0.35	1.1	チャート
3	*	—	2.7	1.85	0.3	1.2	*
4	*	—	1.45	1.9	0.25	0.5	*
5	*	—	1.3	1.45	0.25	0.4	*
6	*	G4 6b	2.65	2.0	0.6	2.8	*
7	磨石	—	8.2	7.2	3.0	286.3	砂岩
8	*	—	13.1	10.2	3.15	556.5	ホルンフェルス



第17図 縄文時代石器実測図



第18図 アカホヤ面遺構分布図



第19図 蔵田遺跡A地区SA 1実測図

## 第5節 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としては竪穴住居跡が1軒のみ検出された。

### 1 竪穴住居跡（第19図）

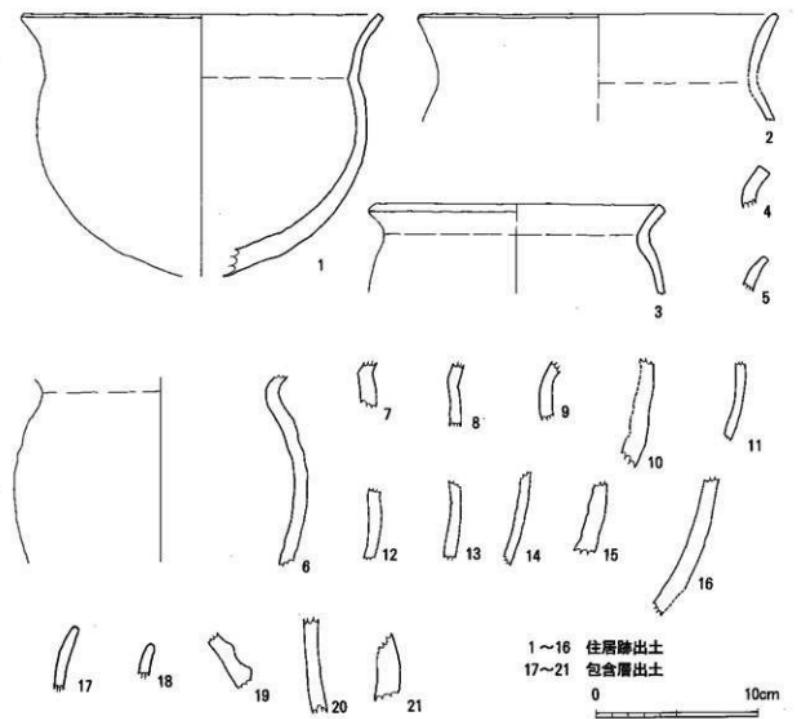
#### S A 1

長径4.12m×短径3.5m×深さ50cmの方形プランである。主柱穴は2本柱である。中央部に焼土らしきものはみられなかった。また、壁の部分に貯蔵穴とみられるような土壤などもなかった。壁帶溝のようなものもみられなかった。斜面地になっているが床面などは平行になるように工夫されてつくられていた。

この住居跡で特に注意したいことは、住居跡の東側の部分から磨製石器の未完成品等がまとまって検出されたことである。この住居跡のその部分で磨製石器等が作り出されていたのではないかと考えられる。

### 2 弥生時代の遺物（第20図）

弥生時代の遺物は住居跡を中心にして出土している。



第20図 藤田遺跡出土弥生土器実測図

### 1 住居跡出土の弥生土器（第20図1～16）

1は、鉢の口縁部から底部付近で内外面ともにナデ調整を施している。2～3は、甕の口縁部から胴部にかけてのところで2は、内外面ともにナデ調整で3は、内外面ともに横ナデ調整である。4～5は、鉢の口縁部で内外面ともに横ナデ調整が施されている。6～9は、甕の頸部から胴部で6は横・縦・斜め方向のナデ調整がほどこされている。7は、外面に斜め方向のナデ調整。内面が横ナデ調整になっている。8は内外面ともにナデ調整である。9は、内外面ともに横ナデ調整である。10～16は、甕の胴部で10～11は内外面ともにナデ調整が施してある。12は、外面がナデ調整で内面は斜め方向にハケ目がみられる。13は外面は風化が著しいために調整は不明であるが内面には斜め方向のハケ目が確認できる。14は、内外面ともにナデ調整が施してある。15は、外面に横方向のタキを施し内面にナデ調整をしている。16は、内外面ともに斜め方向のナデとナデ調整がなされている。

### 2 包含層出土の弥生土器（第20図17～21）

17～18は、甕の口縁部で内外面ともに横ナデ調整である。19は、甕の頸部から胴部にかけてのところで貼りつけ突帯を有し、内外面ともにナデ調整を施してある。20～21は甕の胴部で内外面ともに20は横ナデ調整が施してある。

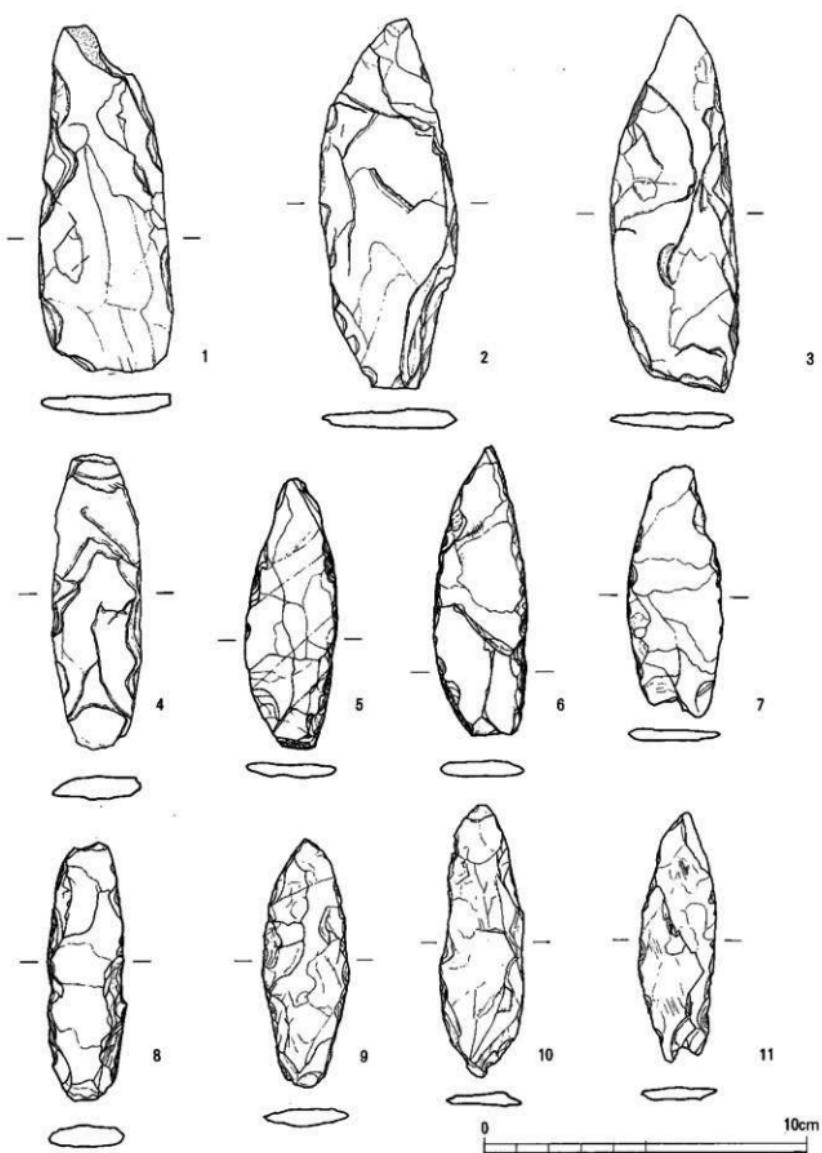
表4 薩田遺跡弥生土器観察表

遺物番号	遺物名及びグリッド	器種	器 部	圓 葵		焼成	色 圓		胎 土	備 考
				外 面	内 面		外 面	内 面		
1 SA 1	鉢	口縁部～底部付近	ナデ	ナデ	良好	浅黄褐色	にぼい黄褐色	5mm以下の褐色、赤褐色、乳白色、黒色の粒を含む	内面(部分的に灰白色)	
2 SA 1	甕	口縁部～胴部	ナデ	ナデ	良好	浅黄褐色	にぼい黄褐色	3mm以下の褐色、赤褐色、乳白色、黒色の粒を含む		
3 SA 1	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙	橙にぼい黄褐色	2mm以下の乳白色、茶色、灰色の粒を含む		
4 SA 1	鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	1mm以下の褐色、灰褐色、黑色の粒が光沢のある柱状の粒。4mm以下の灰褐色の粒を含む	外面(部分的にスス付着)	
5 SA 1	鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の灰色、赤褐色、黑色の粒を多く含む		
6 SA 1	甕	頭部～胴部	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	良好 良好 良好	灰白 浅黄褐色	灰白 浅黄褐色	3.5mm以下の褐色、褐色、灰色、灰白色、白色の粒を多く含む	外面(部分的にスス付着)	
7 SA 1	甕	頭部～胴部	航方向のナデ	ヨコナデ	良好	浅黄褐色	にぼい黄褐色	2mm以下の白色、灰色、黒色の粒		
8 SA 1	甕	頭部～胴部	ナデ	ナデ	良好	にぼい黄褐色	淡黃	4mm以下の黒色の粒を含む		
9 SA 1	甕	頭部～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄褐色	にぼい黄褐色	2mm以下の褐色、赤茶、黒色の粒 透明で光沢のある粒		
10 SA 1	甕	胴部	ナデ	ナデ	良好	にぼい黄褐色	暗灰質	4mm以下の茶色、赤褐色、乳白色、黒色の粒を含む		
11 SA 1	甕	胴部	ナデ	ナデ	良好	にぼい黄褐色	にぼい黄褐色	3mm以下の茶色、黒色、褐色の粒を含む		
12 SA 1	甕	胴部	ナデ	ナデ	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	6mm以下の褐色、灰褐色、灰白色の粒 黒色透明で光沢のある砂粒を含む		
13 SA 1	甕	胴部	(風化)	ナデ	良好	浅黄褐色	灰	4mm以下の褐色、灰褐色、灰白色、灰色、黒色の粒 1mm以下の無色透明で光沢のある粒を含む		
14 SA 1	甕	胴部	ナデ	ナデ	良好	にぼい黄褐色	灰	3mm以下の灰色、褐色、灰色 灰褐色の粒を含む		
15 SA 1	甕	胴部	ヨコ方向 のタキ	ナデ	良好	にぼい黄褐色	灰白 褐灰	2mm以下の茶色、灰褐色、灰白色の粒 4mmの褐色、淡黄色、赤褐色の粒を含む		
16 SA 1	甕	胴部	航方向のナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	良好	灰褐色	灰白	2.5mm以下の茶色、褐色、灰色 灰白色の粒を含む	外面(部分的にスス付着) 内面(風化部分)	
17 C-7	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	3mm以下の白色、褐色、黒色の粒 透明で光沢のある粒を含む	内面(少しスス付着)	
18 C-7	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙	橙	2mm以下の柱状で黒の光沢のある粒 1mm以下の茶色、白色の粒 透明で光沢のある粒を含む		
19 C-8	甕	頭部～胴部	ナデ	荒いナデ	良好	橙	橙	3mm以下の乳白色、赤褐色、黑色の粒を含む	外面(貼付実験)	
20 D-7	甕	胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	3.5mm以下の乳白色、赤褐色の粒を含む		
21 C-7	甕	胴部	斜方向 のタキ	荒いナデ	良好	浅黄褐色	灰白	6mm以下の褐色、赤褐色の粒 3mm以下の灰白色の粒を含む		

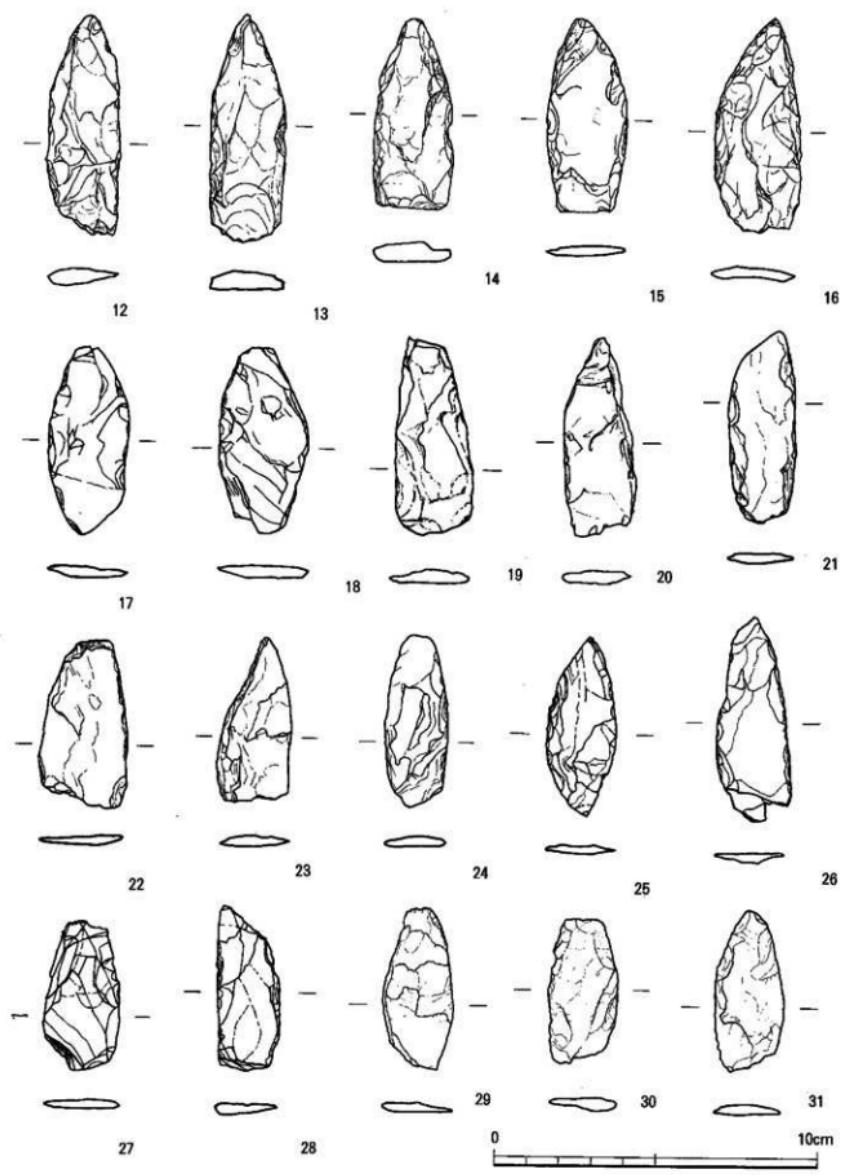
## 3 磨製石器 (第21図～第23図 1～46)

出土した石器の主体を占めるのは、磨製石器の完形品と磨く前の未製品である。その他は、磨製石斧を認めるにすぎない。

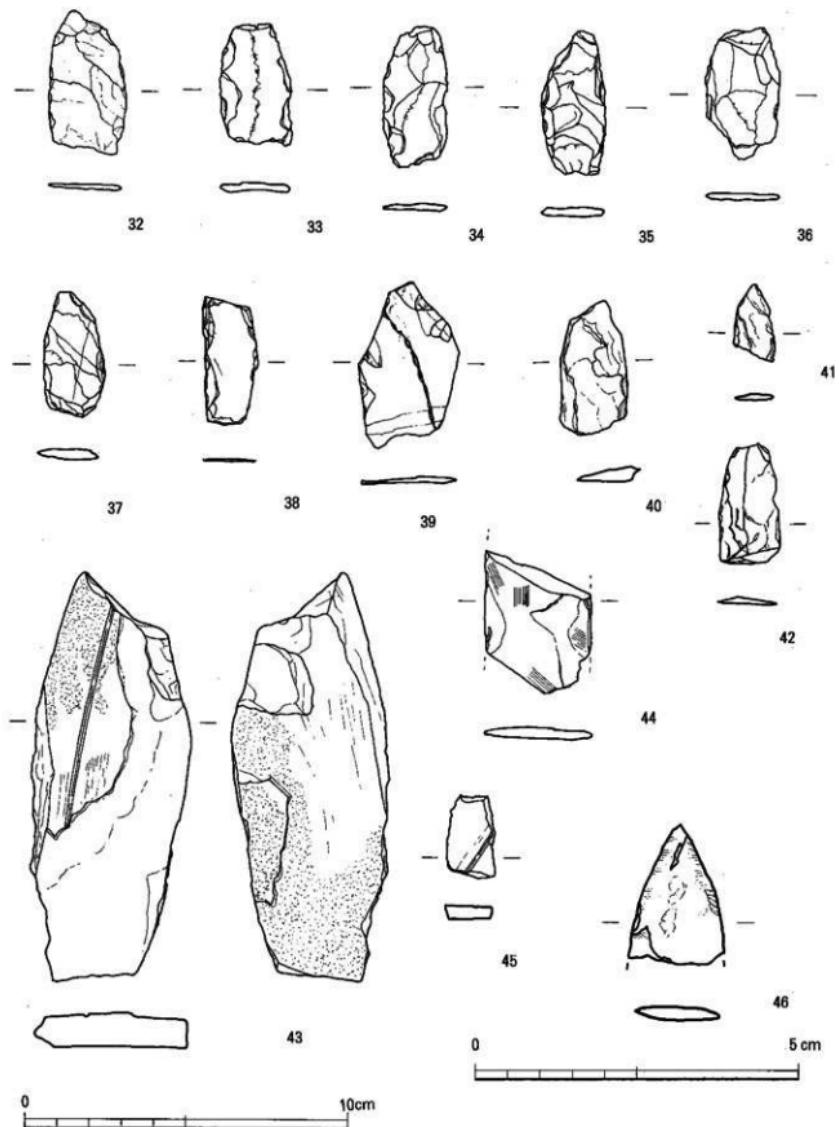
磨製石器は、破片を含め45点余り出土しているが、40点近くは完形を把握できる資料である。形態としては長短いずれも砲弾形のもので、基部の形状はほとんどが凹基で、一部平基もみられる。



第21図 蔵田遺跡赤生石器実測図(1)



第22図 薩田遺跡弥生石器実測図(2)



第23図 蔵田遺跡弥生石器実測図（3）

表5 蔵田遺跡弥生石器計測表

レイアウト番号	種別	遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
			縦横比 高さ 横幅 厚さ				
1	磨製石器 木製品	SA1	10.9	4.2	0.25	40.7	緑色 青白
2	"	"	11.6	4.25	0.22	39.8	"
3	"	"	11.8	4.0	0.22	33.6	"
4	"	"	9.22	2.8	0.75	19.6	"
5	"	"	8.4	2.9	0.4	16.1	"
6	"	"	9.0	2.9	0.5	16.9	"
7	"	"	7.8	3.0	0.35	10.0	"
8	"	"	8.0	2.45	0.65	16.2	"
9	"	"	7.7	2.8	0.6	13.2	"
10	"	"	8.6	2.6	4.8	10.4	"
11	"	"	7.5	2.3	0.4	10.3	"
12	"	"	6.8	2.3	0.7	11.7	"
13	"	"	7.1	2.35	0.6	12.8	"
14	"	"	6.0	2.5	0.6	11.5	"
15	"	"	2.5	6.05	0.4	8.7	"
16	"	"	6.7	2.7	0.4	11.0	"
17	"	"	5.85	2.5	0.4	6.3	"
18	"	"	5.9	2.86	0.55	8.3	"
19	"	"	6.25	2.4	0.45	7.1	"
20	"	"	6.1	2.2	0.5	6.1	"
21	"	"	6.0	2.15	0.4	6.6	"
22	"	"	5.38	2.75	0.52	7.0	"
23	"	"	5.12	2.92	0.5	5.8	"

レイアウト番号	種別	遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
			縦横比 高さ 横幅 厚さ				
24	磨製石器 木製品	SA1	5.35	1.98	0.47	4.7	緑色 青白
25	"	"	5.5	2.2	0.3	4.1	"
26	"	"	6.35	2.35	0.35	5.2	"
27	"	"	4.7	2.35	0.45	5.6	"
28	"	"	5.15	1.95	0.35	4.9	"
29	"	"	5.0	2.2	0.35	4.2	"
30	"	"	4.8	2.1	0.45	4.0	"
31	"	"	5.0	2.15	0.35	3.8	"
32	"	"	4.63	2.4	0.2	2.8	"
33	"	"	3.85	2.25	0.35	2.9	"
34	"	"	4.4	2.1	0.265	2.6	"
35	"	"	4.55	2.0	0.265	3.6	"
36	"	"	4.2	2.3	0.262	3.8	"
37	"	"	3.92	1.9	0.447	3.7	"
38	"	"	3.9	1.6	0.1	2.0	"
39	"	"	4.5	3.2	0.2	4.7	"
40	"	"	4.18	2.18	0.45	3.8	"
41	"	"	2.4	1.32	0.22	0.6	"
42	"	"	3.8	1.9	0.2	2.4	"
43	"	"	12.82	4.98	1.2	82.8	シルト 岩
44	"	"	4.5	3.7	0.4	8.6	緑色 青白
45	"	"	2.62	1.5	0.52	3.0	シルト 岩
46	"	"	2.2	1.6	0.2	1.0	緑色 青白

## 第6節 時期不明の遺構（第24図～第26図）

藏田遺跡の土壇は、アカホヤ上で検出したが伴う遺物がなく、深さが浅く時代を特定できる証拠がないのでここでは時期不明の遺構として取り扱った。

## 1 A地区の土壇（第24図～第25図）

S C 1 …長径1.45m、短径0.85mの楕円形プランで深さは深いところで20cmとかなり浅いものである。

S C 2 …長径0.4m、短径0.38m位の円形プランで深さは20cmである。

S C 3 …長径0.58m、短径0.3mの楕円形プランで深さは20cmである

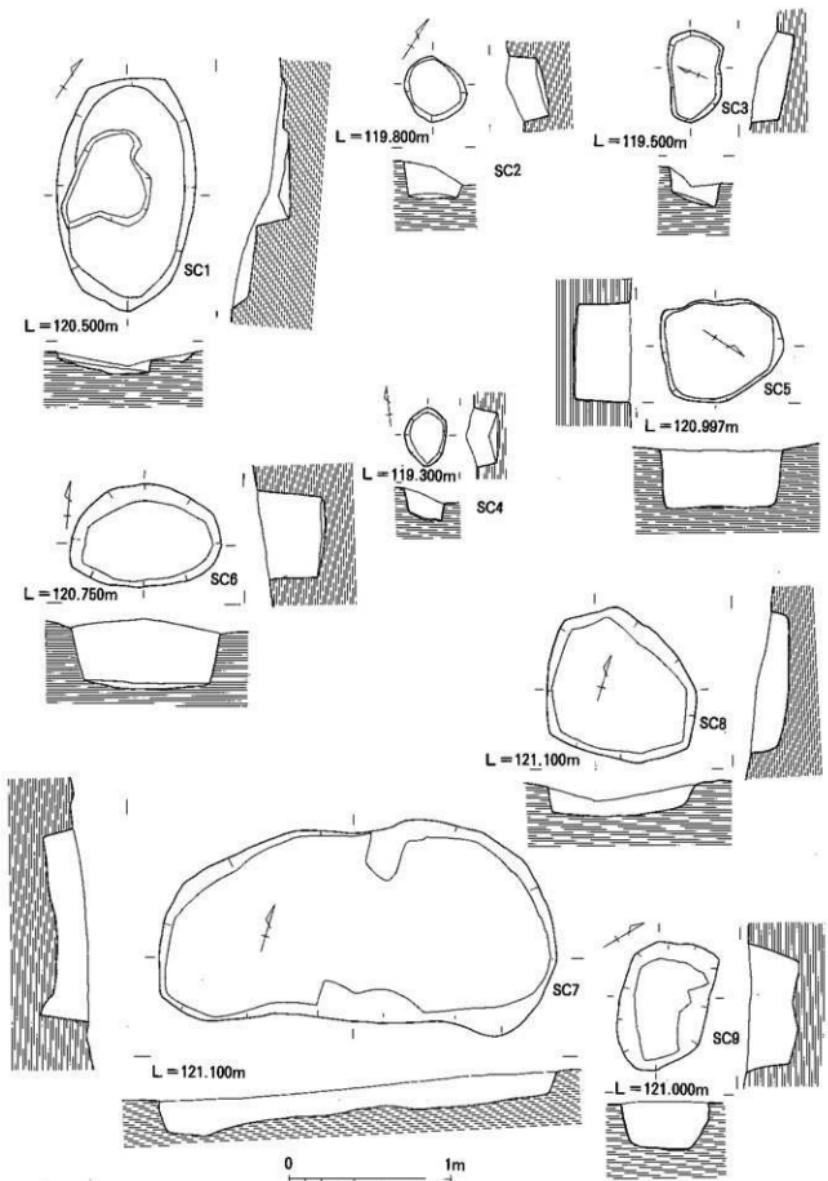
S C 4 …長径0.37m、短径0.20mの円形プランで深さは15cmである。

S C 5 …長径0.75m、短径0.65mの楕円形プランで深さは35cmである。

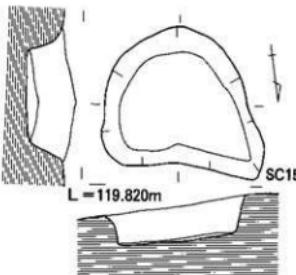
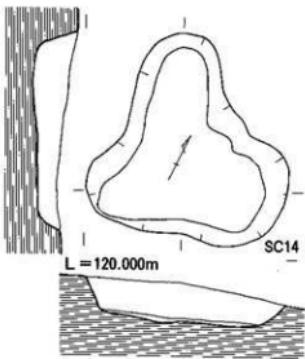
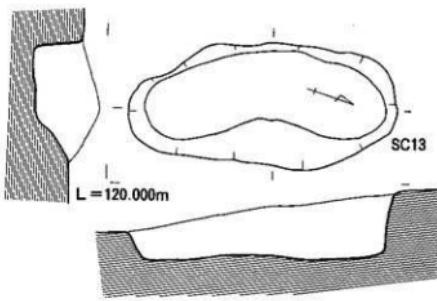
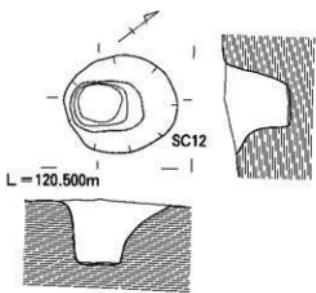
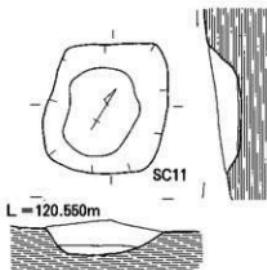
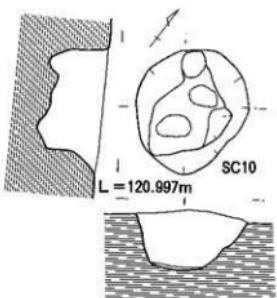
S C 6 …長径0.92m、短径0.63mの楕円形プランで深さは45cmである。

S C 7 …長径2.4m、短径1.2mの楕円形プランで藏田遺跡でいちばん大きなものである。深さは20cmと浅いものである。

S C 8 …長径、短軸0.9mの円形プランで深さは20cmと浅い。

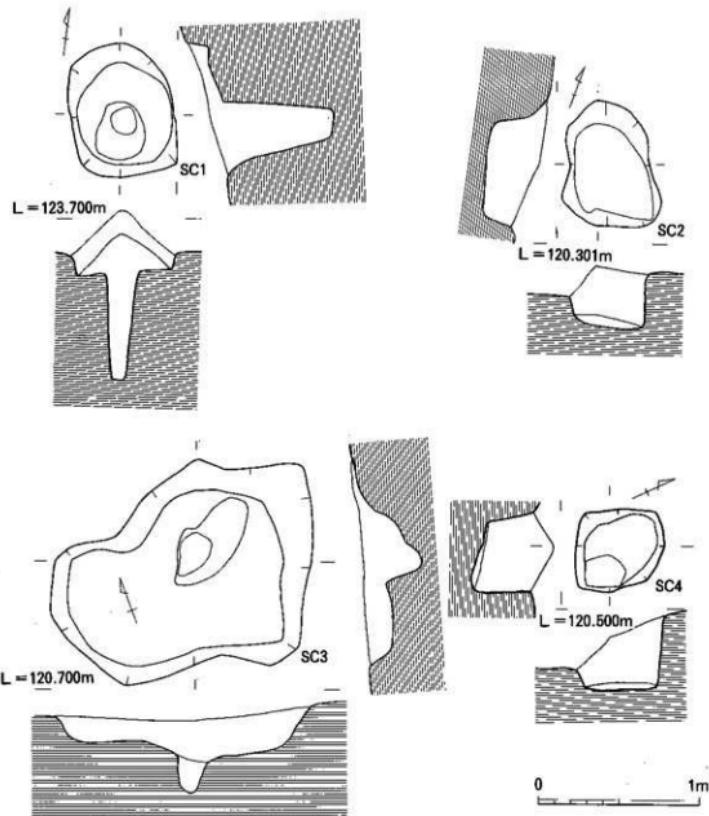


第24図 藏田遺跡A地区SC1～SC9実測図



0 1m

第25図 蔵田遺跡A地区 S C 10~S C 15実測図



第26図 藏田遺跡C地区SC1~4実測図

SC9…長径0.8m、短径0.55mの楕円形プランで深さは30cmである。

SC10…長径0.78mと短径0.7mの円形プランで深さは38cmである。

SC11…長径0.80m、短径0.75mの円形プランで深さは22cmである。

SC12…長径0.70m、短径0.65mの円形プランで深さは40cmである。

SC13…長径0.65m、短径0.75mの楕円形プランで深さは30cmである。

SC14…長径1.25m、短径0.80mの楕円形プランで深さは22cmである。

以上のようにA地区の土壤は総じて小規模のものが多く深さも20cm~30cmくらいのものが多い。

## 2 C地区の土壤（第26図）

SC1…長径0.8m、短径0.65mの楕円形プランで中央に柱穴があり深さは70cmとかなり深い。

SC2…長径0.80m、短径0.50mの楕円形プランで深さは35cmである。

SC3…長径1.6m、短径1.3mの楕円形プランで深さは25cmである。

SC4…長径0.5m、短径0.5mの円形プランで深さは20cmである。

A地区の土壤に比べC地区は4基程度と少ないが土壤の中央部に柱穴がみられるものがある。

## 第7節 蔵田遺跡の小結

ここで蔵田遺跡のまとめを時代的に行っていきたい。

### 1 旧石器時代

蔵田遺跡での、旧石器の組成をみてみると石器の総数は666点でその内碎片が占める割合は、52%で半数に達する。次に多いのは、残核の104点で16%を占める。縦長剝片は、98点で16%を占める。石核は11点で2%である。また、使用痕剥片は、64点で全体のうち10%を占める。石核調整剝片は5点で0.7%を占める。さて、石器類は、ナイフ形石器が18点で全体の2%・剝片尖頭器が9点で1%である。スクレイパーが12点で2%でグレイバースポール・石錐がそれぞれ1点ずつである。

石器の素材としては、流紋岩がいちばん多く素材として使われている。他にはホルンフェルスやチャート等がある。遺物の分布状況であるが、ナイフ形石器は、A地区からは出土しておらずC地区からのみ出土している。出土しているグリッドをみるとG-20、F-20・21・22、E-21・22でそのなかでF-20グリッドが6個と最も多い。剝片尖頭器は、F-4・20・21・22とE-3に分布している。スクレイパーは、E-21・22、F-20・21とG-19・20に分布している。剝片類はA・C地区ともに出土している。A地区からみていくとB-4、C-3・4、D-3、E-3・4、F-4、G-4・5に分布していて、C地区では、E-21・22、F-20・21・22、G-19・20・21に分布している。二次加工剝片類は、B-4、D-3・20、E-4・21・22、F-19・20・21・22、G-19・20に分布している。石核・残核類は、D-3・21、E-3・20・21・22、F-20・21・22、G-19・20・21に分布している。チップは、D-3・20、E-3・21・22、F-19・20・21・22、G-4・19・20・21、H-4に分布している。以上のようにみると石器及び剝片等はある程度出土状況がたまる。しかも傾斜地であるということを考え合わせると、蔵田遺跡の旧石器の遺物は、いくつかのユニットとして取り上げることはできず、上からの流れ込みとして考えたほうが良いと思われる。

### 2 繩文時代

繩文時代については、草創期の墻面文土器や爪形文土器が出土しているが造構等は、何も検出されなかった。土器の数もそう多くなく、繩文時代の生活跡はなく流れ込みではないかと思われる。

### 3 弥生時代

弥生時代の造構については、堅穴住居跡が1軒検出されている。A地区的B-5～6にかけてのところでB-6～5の方向に緩やかに傾斜している部分にある。住居跡内の遺物は全体的に小粒で少ないようだ。住居跡の東の部分の一角で45個ほどの磨製石器の未製品が見つかっている。まだ、磨く前のものである。したがってこの住居で磨製石器などの制作をしていたのかもしれない。住居跡の時期であるが、一部住居跡の上層で繩文土器の混入はあるが床面にはりついで出土した土器から弥生時代後期の所産であると考えられる。また、丘陵の先端はアカホヤ面が確認できなかったが、おそらく丘陵の南側に向って集落が延びる可能性があると思われる。

### 【参考文献】

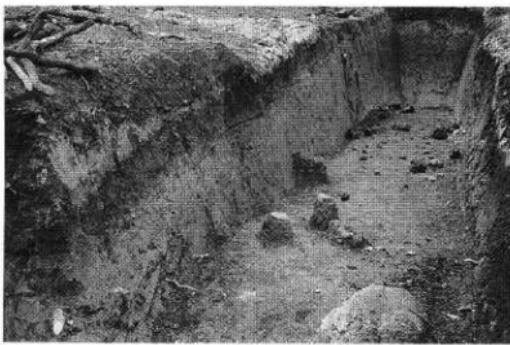
- 1 大分県清川村教育委員会「岩戸遺跡－大分県大野郡清川村所在旧石器時代遺跡第3次発掘調査報告書」1986
- 2 熊本県教育委員会「白鳥平A遺跡－九州自動車道（人吉～えびの）建設に伴う埋蔵文化財調査－熊本県文化財調査報告書 第127集」1993
- 3 熊本県教育委員会「狸谷遺跡－九州自動車道（八代～人吉）建設に伴う埋蔵文化財調査－熊本県文化財調査報告書 第90集」1987
- 4 別府大学考古学研究会「宮崎県船野遺跡における細石器文化－考古学論叢3 橋昌信」1973



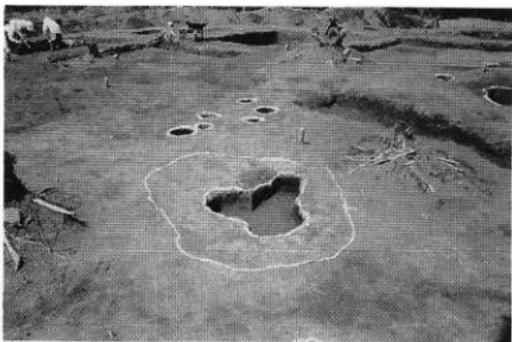
藏田遺跡近景 北から



藏田遺跡景A地区遺物出土状況



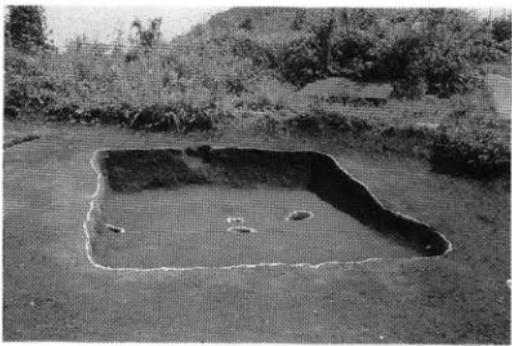
藏田遺跡景C地区遺物出土状況



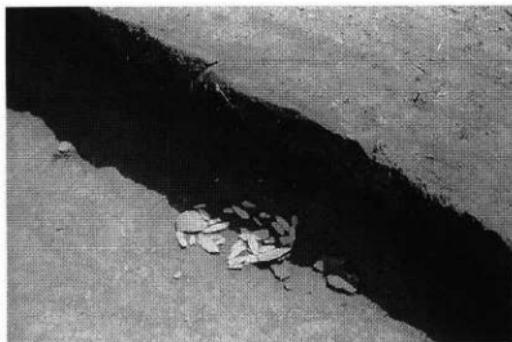
藏田遺跡A地区S C 14完掘状況



藏田遺跡A地区土層断面



藏田遺跡A地区S A 1 完掘状況



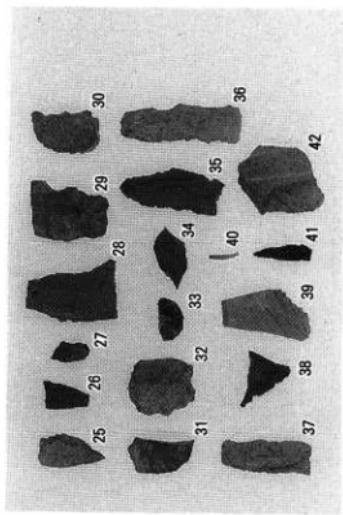
藏田遺跡 S A 1 出土弥生磨製石器



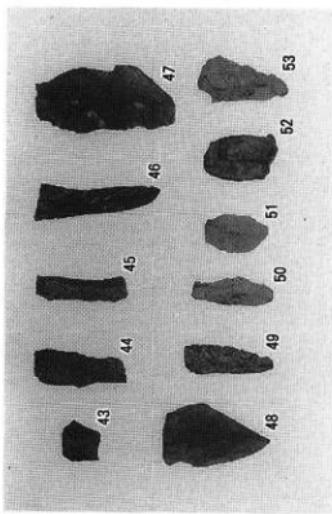
藏田遺跡 C 地区柱穴群完掘状況①



藏田遺跡 C 地区柱穴群完掘状況②



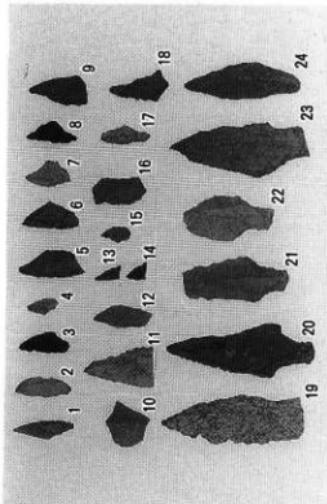
廣田遺跡出土旧石器②



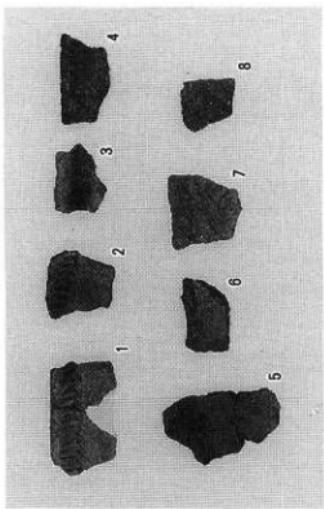
廣田遺跡出土旧石器③



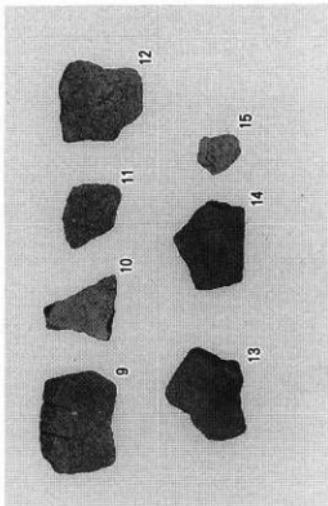
廣田遺跡C地区柱穴群完掘状況③



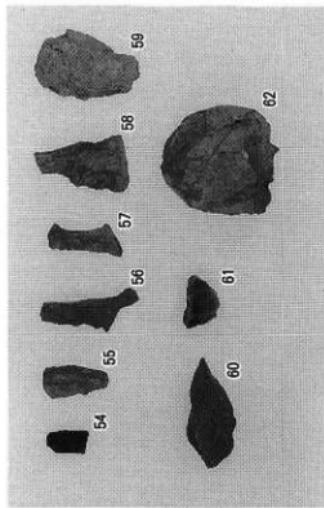
廣田遺跡出土旧石器①



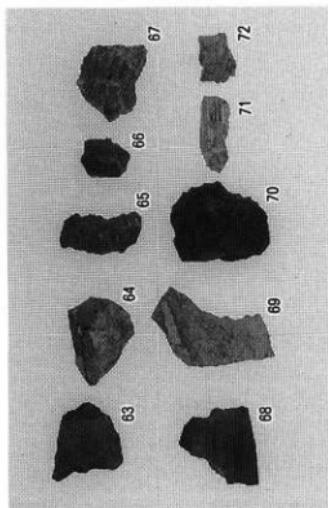
高田遺跡出土縄文土器①



高田遺跡出土縄文土器②

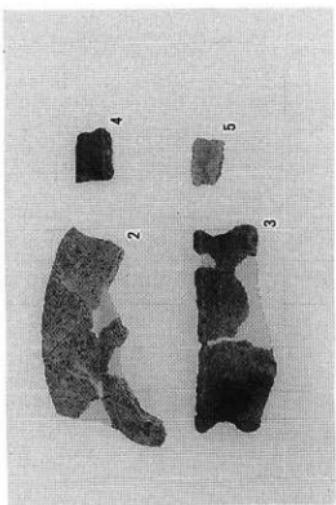


高田遺跡出土旧石器④

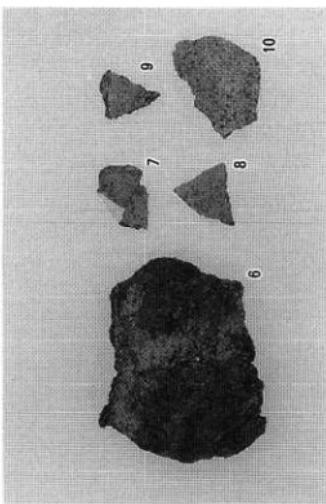


高田遺跡出土旧石器⑤

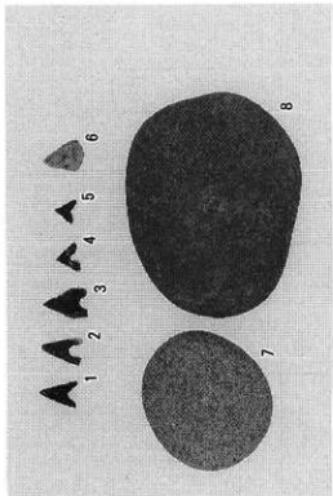
6. 圖



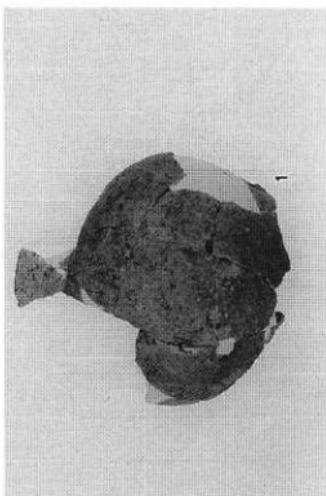
薦田遺跡出土赤生土器②

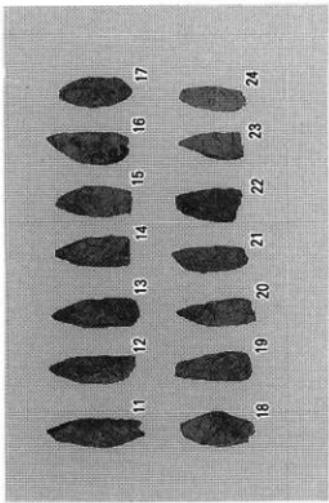


薦田遺跡出土赤生土器③

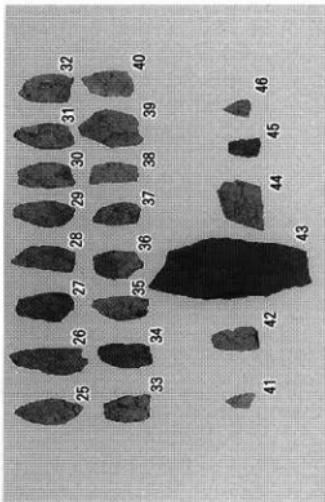


薦田遺跡出土赤生土器①

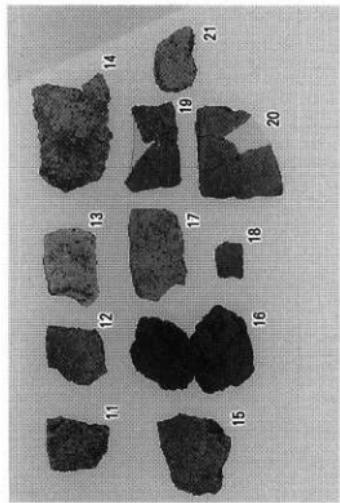




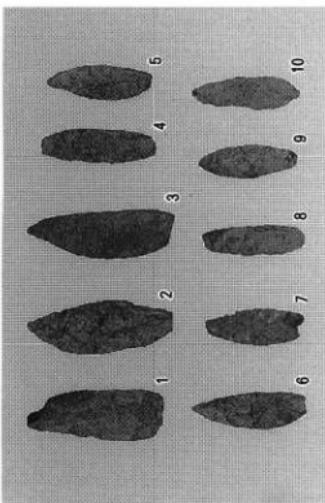
茅田遺跡出土石器②



茅田遺跡出土石器③



茅田遺跡出土石器④



茅田遺跡出土石器①

報告書抄録

ふりがな	うつぎ 打届遺跡	はやひと 早日渡遺跡	やのはる 矢野原遺跡	くらた 藏田遺跡				
書名	打届遺跡 早日渡遺跡 矢野原遺跡 藏田遺跡							
副書名	一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	谷口武範 他							
編集機関	宮崎県教育委員会							
所在地	〒880 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番-10号				☎ 0985-26-7251			
発行年月日	西暦 1995年3月							
ふりがな 所収遺跡名	所在地 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
うつぎ 打届遺跡	北方町大字巳字打届	45426	32度 35分 55秒 付近	131度 28分 55秒 付近	19891012 19891108 19920901 19920922	1次 5,500m <sup>2</sup> 2次 750m <sup>2</sup>	一般国道218号 椎畠バイパス 建設	
はやひと 早日渡遺跡	北方町大字巳 174番地外	45426	32度 35分 50秒 付近	131度 29分 50秒 付近	19900116 ~ 19900320	4,000m <sup>2</sup>	"	
やのはる 矢野原遺跡	北方町大字辰 字矢野原	45426	32度 35分 30秒 付近	131度 30分 20秒 付近	19920214 ~ 19920903	4,800m <sup>2</sup>	"	
くらた 藏田遺跡	北方町大字辰 字藏田	45426	32度 35分 20秒 付近	131度 30分 30秒 付近	19930614 ~ 19931007	2,400m <sup>2</sup>	"	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
うつぎ 打届遺跡	散布地	縄文時代	柱穴	縄文土器・打製石器	特になし
	"	縄文早期	特になし	縄文土器・石器	"
はやひと 早日渡遺跡	"	縄文早期	集石遺構5基	押型文土器・石鎌・石匙 環状石斧	"
やのはる 矢野原遺跡	"	縄文早期 ↓ 旧石器	集石遺構15基他	縄文早期・押型文土器 旧石器-ナイフ形石器・ スクレイパー	AT下位より 石器群出土
くらた 藏田遺跡	"	弥生後期 ↓ 旧石器	堅穴住居1軒・土壤18基	縄文草創期~墻蒂文土器 旧石器-ナイフ形石器・ スクレイパー	特になし

---

一般国道 218 号椎畠バイパス建設  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

打 扇 遺 跡  
早 日 渡 遺 跡  
矢 野 原 遺 跡  
藏 田 遺 跡

平成 7 年 3 月

編集行 宮崎県教育委員会  
〒880 宮崎市樋内東1丁目9-10  
印刷 有限会社 鉱脈社  
〒880 宮崎市田代町263番地

---